

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 屋我 実 | 所 属 | 工学部 工学科 機械工学コース | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 機械システム工学科教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行う。 成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にする。またいつでも問い合わせができるように、対応を考える。 指導大学院生に国際学会で学会発表をさせる。就職担当として企業と学生のスムーズな情報共有を促進し、進学・就職を活性化させる。 | | 0.30 | 機械システム工学科教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行い、専門知識の習得に貢献した。 指導大学院生に名古屋で開催された国際学会と仙台での国内学会で発表をさせた。就職担当として学生への動機付け、講習会を開催し、学生の進学・就職活動を活性化させた。 | |
| 研究 | 0.30 | 国際学会への参加および国際誌への投稿・掲載を目指す。 国際学会のコミッティーメンバとして、国際学会を沖縄で開催する。28年度採択された科研費テーマの応用的な研究を行う。 | | 0.30 | 国際誌への掲載が決まった。 また5月に実行委員長として国際学会を成功させた。 科研費テーマつにて、国際学会、国内学会で発表した。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 学外審査委員会の委員や委員長になり、県内物づくりのレベルを向上させ、県内物づくりに対する環境作りを支援する。 | | 0.20 | 沖縄TLOから依頼された審査委員会の委員長として、県内ものづくり基盤整備に採択された企業への審査・アドバイスを実施した。 | |
| 管理 運営 | 0.20 | 国際交流員として、工学部の国際に貢献する。 大学院改革WGとして、大学院実質化・活性化に取り組む | | 0.20 | 国際交流員として、工学部の国際に貢献した。 大学院改革WGとして、大学院実質化・活性化を行うための議論を実施した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|--|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|--|-----|--|
| 名 前 | | 宮崎 達二郎 | | 所 属 | | 工学部 工学科 機械工学コース | | 職 名 | | 准教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート等の指摘, 自らの発意に基づく授業の改善を試みる. ・学生実験においてTAを有効に活用し, 教育効果の改善を試みる. | | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・演習問題を確保し, 学生の理解度が向上するように心がけた. ・TAには, 準備や片付けだけでなく, 実際の実験にも参加してもらい, 受講学生が気軽に質問できるよう工夫してみた. | | | | |
| 研究 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌に論文を投稿する. ・学会で研究発表を行う. | | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・DAMAS2017で1件の発表を行った. ・「エレクトロニクス実装学会誌」に1本の論文を投稿し, 掲載となった. | | | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等で, 研究成果を紹介する. | | | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスで, 研究内容および成果の紹介を行った. | | | | |
| 管理 運営 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年次編入, 大学院等の入試業務に携わる. | | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学院入試(口頭試問)を担当した. | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | | 1.00 | | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 照屋 功 | 所 属 | 工学部 工学科 機械工学コース | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解を確認し、学生が「わかった」の実感を持つ授業を目指し、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるよう努める ・怠惰欠席防止および学生からの質問や意見取得促進を目的とした欠席通知メールを授業欠席者へ送るシステムをTAとともに構築し、実行する | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中再三学生の理解を確認するよう努め、学生から質問が出るようになった。アンケート総合評価は「ふつう」以上が90%以上と高い評価を得た。 ・「機械設計技術者試験」対策講座講師として他の学科内有志教員と共に学生を指導し、担当科目について学生の理解度を向上させることができた。 ・毎回授業後に欠席学生へ出席を促すメールを送ることにより「声かけ」をおこなった。欠席学生から反省メールなどもあり、概ね好評であった。 | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会講演会等への参加および報告発表 ・ターボ機械協会沖縄地区委員会幹事としての活動 ・今年度沖縄で開催される国際学会(ISAIF)の実行委員としての活動 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際学会講演論文(ISAIF、査読付き)1件研究発表。 ・国際学会(ISAIF)の実行委員として活動した。 ・ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事として活動。 ・企業の開発研究に卒業研究指導により関わった。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域、社会等へ向けた学部、学科・コースや研究内容の紹介 ・県内外の工業界との交流 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科HP、高校訪問などで研究内容、設備、学部、学科・コースの紹介をした。 ・「機械のいちびっこエンジニア体験教室」を実施し、学部・コースPRをした。 ・学生の就職活動に関して県内外の企業の方々と交流を持った。 | |
| 管理 運営 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務 ・工学部情報委員会委員としての活動 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務をした。 ・工学部情報委員会での活動をおこなった。 | |
| 進路 指導 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間主コース3, 4年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他) ・研究室、その他の学生への進路指導 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間主コース3, 4年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)をおこない、学生を指導した。 ・研究室、その他の学生への進路指導をした。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|---|-----|---------------------|--|
| 名 前 | | 中園 邦彦 | 所 属 | | 工学部 工学科 機械工学コース |
| | | | 職 名 | | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.45 | 受講生が理解しやすく、授業アンケートの総合評価が高くなるような講義を提供する。夜間主コースの2年次指導教員として、学生の相談にのったり、履修指導を行う。また、研究指導している学生の進路相談の助言をする。 | | 0.45 | 「基礎制御工学Ⅱ」の講義では、演習を取り入れながら、理解度が増すように工夫し、授業改善アンケートの総合評価で、昼間主88.7%、夜間主91.7%の「ふつう」以上の高い評価が得られた。夜間主の「プログラミング」の講義では、受講者が少数だったため、プログラムの間違い等、演習中に適宜指摘しながら講義演習を実施した。 2年次指導教員として、単位履修指導などを行った。また、研究指導している学生(博士前期1名と学部4年次4名)の進路について助言を行い、全員進路が決定した。 以上により、当初の目標を達成した。 |
| 研究 | 0.30 | 博士前期課程や卒業研究の学生達とともに研究を推進し、関連分野での学会で、講演発表等を行う。 | | 0.30 | 研究指導している博士前期学生を引率し、SCI'17にて研究発表講演(学生との共著:1件)、SICE九州支部学術講演会にて研究発表講演(学生との共著:3件)を行った。IEEE Trans. on Industrial Informaticsの査読依頼(1件)を引き受けた。科研費(1件)を申請した。 研究指導している4年次学生(4名)と博士前期学生(3名)のゼミや論文指導を行い、卒業論文や修士論文を執筆させた。 以上により、当初の目標を達成した。 |
| 社会 貢献 | 0.05 | 琉球大学生協の理事として、会議やイベントに参加し、生協の運営活動に協力する。高校訪問にて、工学部の紹介を行う。 | | 0.05 | 琉大生協の理事として、理事会に出席し、生協の運営活動に協力した。また、高校(那覇工業高校)を訪問し、高校生に工学部の新学科新コースの内容について、説明した。 以上により、当初の目標を達成した。 |
| 管理 運営 | 0.20 | URGCC教育推進や学内の委員会での活動に対する資料作成等に協力する。 | | 0.20 | 学部の広報図書委員として、委員会へ出席し、学内等で発行する冊子などの資料収集や作成に協力した。全学の学生生活委員と営利企業役員等兼業審査委員として毎回会議(メール会議含む)へ出席し、資料作成や審議等に協力した。特に、学生生活委員では、千原寮の防火等視察や琉大祭の巡回視察にも協力した。他にも委員を引き受け、協力した。 以上により、当初の目標を達成した。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 藤川 正毅 | 所 属 | | 工学部 工学科 機械工学コース | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 授業の工学的な位置づけや応用先をできるだけ明確にして、学生が興味をもてる様に努力する。また学生の理解度を確認しながら、お互いにコミュニケーションをとれるような授業環境を心がける。 進路相談に関して、日ごろから学生の希望する進路や興味などを聞くようにし、状況を把握・そして適切に指導できるように準備を心がける。また、履歴書の書き方や面接など助言をする。大学院進学を考えている学生には、そのメリットや研究の興味などを可能な限り伝えられるように資料作成・面談を行う。 | | | 0.40 | 授業や実験内容が社会でどのように役に立つのかをできるだけ含めるようにスライドや資料を工夫した。また研究の意義や目的なども講義の中に交えて、学生の興味を引き付けるように工夫した。 また、積極的に学生の就職活動状況について話しかけ、就職活動の状況を確認するとともに、履歴書乃作成の助言、面接の練習などをおこなった。 | | |
| 研究 | 0.40 | 学会誌への論文投稿・国内外での発表を目標に研究を進める。また、外部資金の獲得を目指す。 | | | 0.40 | 国際学会1件、国内発表4件を行った。また、CERI若手奨励賞を受賞した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 研究に関するコース活動や勉強会等に参加する。 | | | 0.10 | 沖縄県で開催された「ゴムの力学ワークショップ」に実行委員として参加した。また機械の日のイベントに参加して、子どもたちと物づくり体験を行った(速く走るミニ四駆づくり)。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 教授会、学科会議に積極的に参加する。また、コース内および学科内等の各種委員会に参加する。 | | | 0.10 | 改組関係の委員、および学科内での委員活動を行った。 | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 石川 正明 | 所 属 | 工学部 工学科 機械工学コース | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> 学生実験のレポートの提出状況をよくするために、メール等活用する。 講義の欠席数を減らすために、欠席する学生へメールなどでコミュニケーションを取り、指導する。 研究室学生に対し、メールまたはゼミ等で、就職情報を提供をするとともに、就職状況を把握する。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> レポート未提出者への連絡のために、メールを利用し、提出の催促をした。 特に欠席の多かった過年度提供の「基礎製図」の講義では、学科の欠席管理システムを利用し、年次指導教員からもメール等で対応してもらった。 研究室の学生には、メール等を利用し、学生へ様々な案内を行った。また4名全員就職できた。 | |
| 研究 | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> 国際会議へ積極的に参加し、研究成果を発表する。 1編以上の論文を投稿する。 | | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> 国内で1件(混相流シンポジウム)発表を行った。 国際会議へ3件(ISAIF13,TFEC9,ISMTMF'17)発表を行った。 OpenJournalofFluidDynamics(OJFD)へ論文1つが掲載された。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> 日本混相流学会における委員会で活動する。 2017年度沖縄開催の2つの国際会議(TFEC9, ISAIF13)で、現地委員として活動する。 | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> 日本混相流学会のリエゾン委員会に所属し、混相流シンポでオーガナイザとしてOSを開き、会員増に尽力した。 2017年度沖縄開催の2つの国際会議(TFEC9, ISAIF13)で、現地委員として活動した。ISAIF13はHP作成等行った。TFEC9では開催前準備やバイト集め等を行った。 | |
| 管理 運営 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 交通指導委員会の委員長として、学内の交通安全や駐車場の利用について指導する。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 交通指導委員会の委員長として、工学部の事故数が多いので、全学の施設マネジメント委員会へパトカーによる巡回や交通事故マップ作成など依頼し、交通安全対策に努めた。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 齊藤 正敏 | 所 属 | 工学部 エネルギー環境コース | 職 名 | 教授 |
|-----------------|---------------------|---|-----|---------------------|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 1. 機械材料で演習問題及び解答をweb classに掲載し、学生の利便性を図り、機械材料 I の講義内容に物理的取り扱いを導入して定量的な内容に改善する。 2. 院の複合材料特論に演習問題、結晶成長理論にグリーン関数の例題を導入して理解を深める。 3. 配属された卒論生の就職活動の支援を行う | | 0.40 | 1. 各講義毎の問題、解答をweb classに掲載した。また、二元系固溶体や核生成の自由エネルギーを求め、状態図や過冷の物理的解釈、転位論から材料強度が定量的に求まるのかを講義した。 2. ラミナの工学定数や応力計算の問題の講義、またグリーン関数の例題を用いてグリーン関数における相関関係の重要性や伝搬性、特異点との関係について講義をした。 3. 卒論生4名の内、1名は就職を希望せず(本人と就職をしない場合のリスクについて話し合ったが、両親の意見も含めての結論)、2名は就職希望し、2名とも内定(就職活動に専念できるように計らった)、残り1名は九州大学理工学研究科に進学(就職と進学についてメリット・デメリットを話し合い、本人が進学を選択)を決めた。 | |
| 研究 | 0.40 | 1.タングステンの電析に関する論文を投稿する 2. 量子共鳴に関する論文を投稿する 3. 新しいテーマとしてホイスラー合金及びホモロガス相に関する研究に着手する 4. 科研費に応募する | | 0.40 | 1. タングステンに関する研究がInt. J. Electrochem.Sciに掲載された。2.量子共鳴を用いたCo-Ni薄膜に関する論文がInt.J.Electroche.Sci.に掲載された。3.ホイスラー合金及びホモロガス相に関する研究を開始し、成果を論文投稿予定。4. 科研費に応募した。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 1. Editorial board memberであるjournalから査読の依頼があれば、積極的に引き受ける 2. それ以外のjournalから査読の依頼があれば、引き受ける | | 0.10 | 査読依頼がJ. Phys.D, Int. J. Electrochem.Sci.,NMCIから各1件、合計3件あり、査読を行った。 | |
| 管理 運営 | 0.10 | 予算委員と国際連携委員としての仕事を行う。 | | 0.10 | 予算員会は、まだ開催されていないが、国際連携委員会にはすべて出席して、意見を述べた。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 古川 俊雄 | 所 属 | | 工学部 工学科 環境エネルギーコース | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように努める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。社会連携担当副学部長として工学部後援会で就職説明会とセミナーを行い学生の就職活動の支援を行う。 | | | 0.40 | これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように努め、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行った。その結果授業改善アンケートでの5段階評価で3(ふつう)以上の割合は、工業数学I 84.8%、機械要素設計学2組 100%、機械要素設計学夜間主 94.7%、弾性力学I 88.2%、材料力学III 97.9%とかなり高い数値となった。社会連携担当副学部長として工学部後援会で就職説明会とキャリア支援セミナーを行い学生の就職活動の支援を行った。以上より年度目標を達成した。 | | |
| 研究 | 0.40 | 関係する学会講演会等に参加し最新の研究成果の知見を得るとともに可能な限り研究発表を行う。研究成果をまとめて学術誌に投稿し、掲載されることを目指す。論文校閲依頼があれば積極的に引き受ける。 | | | 0.30 | ロシア連邦ペルミ市にあるロシア科学アカデミーウラル支部メディア力学研究所で開催された第3回構造物と機械の先進動力学とモデルに基づく制御に関する国際ワークショップに参加し研究発表を行った。その成果はSpringer社から発行される予定である。海外から論文校閲依頼があり、それを引き受け、最近論文が掲載されたとの連絡を受けた。以上より年度目標を達成した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 社会連携担当副学部長として工学部後援会の就職説明会や理事会・総会の円滑な運営に努める。沖縄総合事務局などから依頼があれば、台湾ー沖縄のビジネスマッチングに協力する。 | | | 0.15 | 社会連携担当副学部長として工学部後援会の就職説明会、キャリア支援セミナーや理事会・総会の円滑な運営に努め、年度目標は達成した。なお、今年度は台湾ー沖縄のビジネスマッチングの協力依頼はなかった。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 社会連携担当副学部長として、副学部長会議、学科会議(コース会議)、教授会、研究科委員会(前期・後期)、代議会、学部委員会、全学委員会などで円滑な運営に協力する。 | | | 0.15 | 社会連携担当副学部長として、学部戦略会議、学科会議(コース会議)、教授会、研究科委員会(前期・後期)、代議会、学部委員会(社会連携委員会)、全学委員会(グローバル教育支援機構キャリア教育支援部門会議、地域連携推進会議)などで円滑な運営に協力し、年度目標を達成した。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 倉田 耕治 | 所 属 | 工学部 工学科 環境エネルギー工学コース | 職 名 | 教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 機械力学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行う。授業の最後の二, 三回で集中的に演習を行うことで, 成績と単位取得率の向上を図る。特別コースのNeural Network Modelingでは, 受講生のオリジナルな問題の解決を試みる。 | | 0.30 | 機械力学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行なった。授業の最後の三回で集中的に演習を行うことで, 成績と単位取得率の向上を図った。大学院前期課程では自己組織系特論。今年度は特別コースのNeural Network Modelingの受講生はいなかった。卒業研究のゼミを週1回から2回に増やすことで, 学生の研究態度, 意欲, 達成度が劇的に改善し, 学外発表に足る成果を得た。 | |
| 研究 | 0.25 | 大学院生, 他大学(岡山理科大学, 宮崎大学等)との共同研究をおこなう。学会, 研究会発表または論文発表2~3件程度。 | | 0.29 | 卒論生, 宮崎大学の伊達章准教授との共同研究をおこなった。研究会発表2件。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 電子情報通信学会論文誌の査読委員を務める。依頼があれば一般向けの講演会, 学会, 研究会の座長, 顕彰評価委員などをおこなう。 | | 0.01 | 電子情報通信学会論文誌の査読委員だったが, 依頼はなかった。一般向けの講演会, 学会や研究会の座長, 顕彰評価委員の依頼もなかった。オープンキャンパスにおいて, エネルギー環境工学コースの相談員を務めた。10月より計測自動制御学会九州支部学術講演会の現地実行委員, 来年度に引き続く。 | |
| 管理 運営 | 0.40 | エネルギー環境工学コースのコース長, 教育委員を務める。 | | 0.40 | エネルギー環境工学コースのコース長, 教育委員を務めた。昨年度に引き続き博物館(風樹館)運営委員会委員を務めた。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|
| 名 前 | | 瀬名波 出 | 所 属 | | 工学部 工学科 |
| 職 名 | | | | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 1) Advanced Heat Transfer Engineering I :特別コース用英語授業科目を開講する。 2) 熱力学II: 昨年に引き続き、アクティブラーニング形式授業を行う。 3) 熱機関工学(昼・夜)、機械工学概論、機械工学演習等: 専門選択科目の担当。 4) 博士、修士学生の国内学会・国際学会発表指導 5) 研究室学生の研究指導および進学や就職指導 6) 機械システム工学科2年次1組学年指導教員 | | 0.35 | 目標項目: 1) Advanced Heat Transfer Engineering I :特別コース用英語授業科目を新しく開講した。 2) 熱力学II: 昨年に引き続き、2年次1組、2組に加えて過年度生対象の3組を対象に昨年に引き続きアクティブラーニング形式の授業を導入した。履修率が85%以上と格段に向上した。アンケート結果も好評だった。 3) 熱機関工学(昼・夜)、機械工学概論(電気電子工学科科目)、機械工学演習等の専門選択科目を担当した。 4) 博士、修士学生の国内学会・国際学会発表指導: 国際学会1件(修士1名)、国内学会1件(学部生1名)の指導を行った。 5) 研究室学生の研究指導および進学や就職指導として卒業研究(4テーマ: 主指導4名)、修士研究指導2名(主指導教員2名、副査3名)、博士課程1名の指導を行った。とくにABEプログラムによるアフリカからの留学生修士2年の研究指導を行った。 6) 機械システム工学科2年次1組学年指導教員として、休学相談、復学指導を行った。 追記: ●工学概論: 今年度から開講の学部横断型授業の担当した(1コマ)。 ●日本工学協会題65回年次大会にて、アクティブラーニングに関する講演発表を行った。 ●教育関連学会、展示会に複数参加し、アクティブラーニング(AL)、プロジェクトベースラーニング(PBL)等、文科省の推奨する新しい工学教育方法の情報収集を積極的に行った。 以上より、年度目標は十分に達成したと考える。 |
| 研究 | 0.35 | 1) 関係する学会等において積極的に研究発表を行う。 2) 成果をまとめて学会誌へ論文投稿し、掲載されることを目指す。 3) 産官学協力型研究PJ化を進める。(外部資金の獲得を目指す) | | 0.35 | 目標項目: 1) 関係する学会等において積極的に研究発表を行う: 国際学会にて2件の発表を行った。そのうち1件はInvited Speakerとして登壇。 2) 成果をまとめて学会誌へ論文投稿し、掲載されることを目指す: 2本の査読付きJournal論文が採択・発行された。1本の査読付きJournal論文を投稿中である。 3) 産官学協力型研究PJ化を進める。(外部資金の獲得を目指す): 3件のPJ型研究(外部資金)を獲得した[1]H29年度産官学連携推進ネットワーク形成事業(研究開発プロジェクト): 研究代表者、2)H29年度沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業: 研究代表者、3)NEDO「次世代火力発電等技術開発/次世代火力発電基盤技術開発/CO2有効利用技術開発」事業: 研究開発責任者) 追記: ●研究成果の主な広報活動: 1)第1回マリンテックグランプリにてファイナリストとして登壇(2017.9)、2)琉球大学一糸満市包括連携協定式において基調講演・県内TVニュースにて紹介(2017.12)、3)琉球新報にて研究紹介記事掲載(2017.1)、4)沖縄タイムスにて研究紹介記事掲載(2017.1) |
| 社会 貢献 | 0.20 | 1) 産業支援の一つとして専門分野の知見および研究成果を公開していく。 2) 学協会活動への協力 | | 0.20 | 目標項目: 1) 産業支援の一つとして専門分野の知見および研究成果を公開していく。: 1) 沖縄県「海洋温度差発電における発電後海水の高度複合利用実証事業」委員、2) 沖縄県「成長分野リーディングプロジェクト創出事業」委員、3) 国際電気自動車レース技術アドバイザー委員、4) なんじょう産官学連携人材育成協議会委員(南城市) 2) 学協会活動への協力: 1) 日本機械学会論文集校閲委員、2) 論文査読3件(国際誌3件)、3) 国際会議運営委員・座長(2017.5) 以上より、年度目標は十分に達成したと考える |
| 管理 運営 | 0.10 | 1) H29年度産官学連携推進部門研究支援系長 2) H29年度発明審査委員会委員副委員長 3) H29年度工学部自己評価・年度計画委員 | | 0.10 | 目標項目: 1) H29年度産官学連携推進部門研究支援系長として毎月3回の会議に参加、学内シーズ研究と学外企業ニーズとのマッチングサポートを行った。 2) H29年度発明審査委員会委員副委員長として毎月委員会に参加。 3) H29年度工学部自己評価・年度計画委員として委員会に参加。 追記: ・工学部工学科GEプログラムリーダーとして、台湾(4大学)、カンボジア工科大学、ベトナム・ハノイ工科大学に赴き、大学・学部間交流の調整を行った。 以上より、年度目標は十分に達成したと考える |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 松田 昇一 | 所 属 | | 工学部 工学科 エネルギー環境工学コース | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する。 研究室の卒研(10名)を対象として伝熱ゼミを行う。 直接指導している修士学生(5名)および卒研(4名)に英語論文ゼミ および進捗ゼミを行う。 | | 0.30 | 学生から意見より、毎回授業の最後に復習用の課題を出した。その結果単 位取得率が向上した。 研究室の卒研(10名)を対象として伝熱ゼミを行った。 直接指導している修士学生(5名)および卒研(4名)に英語論文ゼミお よび進捗ゼミを行った。 | | | |
| 研究 | 0.40 | 学会誌へ投稿(1~2件)を目指す。 国内発表(2~3件)を目指す。 国際学会発表(1~2件)を目指す。 新規取得の科学研究費補助金(H28~30年度, 基盤C)の研究を精力的に行う。 大阪大学接合科学研究所と共同研究を行う。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行う。 | | 0.40 | 学会誌へ2件投稿し、1件採択、1件は審査中。また現在1件執筆中。 国内発表に2件発表した。 国際学会に3件発表した。 新規取得の科学研究費補助金(H28~30年度, 基盤C)の研究を精力的に行った。 大阪大学接合科学研究所と共同研究を行った 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行った 新規に溶接協会から研究補助金を獲得し、研究を行った。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 学外の行事に参加する。 溶接学会の教育委員、九州沖縄支部委員および若手の委員として社会貢献に努め る。 機械学会熱工学部門九州支部委員として社会貢献に努める。 機械学会流体部門広報委員として社会貢献に努める。 | | 0.15 | 学外の行事に参加した。 溶接学会の教育委員、九州沖縄支部委員および若手の委員として社会貢献に努 めた。 機械学会熱工学部門九州支部委員として社会貢献に努めた。 機械学会流体部門広報委員として社会貢献に努めた。特にニュースレターの編集 を担当した。 新たに、沖縄県のOTEC実証に関する委員を努めた。 | | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 工学部広報・図書委員、ニュース編集WE委員として努める。 学科志願増委員(委員長)として努める。 代議会委員として努める。 | | 0.15 | 工学部広報・図書委員、ニュース編集WE委員として努めた。 学科志願増委員(委員長)として努めた。 | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 近藤 了嗣 | 所 属 | | 工学部 工学科 エネルギー環境コース | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|---|---------------------------------------|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 講義に関して、専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める。共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める。証拠資料は保存資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年度から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | 0.40 | 専任科目、共担科目共に「普通」以上7割を達成した。前学期専任科目の機械システム設計製図ではエンジニアリング・デザイン教育のため、課題の自己設定、自己解決、自己評価、これらのグループワークを実施した。CAD演習に関して、昨年度、操作性に関して検討したフリーソフトの鍋CADを教材に採用し、授業環境改善に取り組んだ。後学期新コースの専任科目として工業力学を担当すると共に、演習課題のグループワークを導入し、大幅な授業改善に取り組んだ。結果、高い単位取得率が得られた。大学院の講義として機械基礎工学特論Ⅰ、Ⅱを前・後学期開講して提供科目の充実に貢献した。専任科目では「普通」以上、10割を達成した。今年度の目標以上を達成した。JSEE(日本工学教育協会)第65回年次大会にて「エンジニアリング・デザインとプロジェクト・マネジメントの教育を目的とした機械設計製図の協働効果」について講演を行った。また、講演後、編集委員会より本件について論文投稿の座長推薦を戴き、今年度の目標以上を達成した。卒業研究の担当学生4名に対して、定期的に進路相談の時間を用意した。結果、4名とも進路が決まり、当初の目標を達成した。 | | |
| 研究 | 0.30 | 現在、遂行中の研究課題に関する成果発表を目標とする。なお、研究進捗状況や研究予算、原稿執筆から掲載までに要する時間などを考慮して、年間1件程度を目標とする。証拠資料は業績とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | 0.25 | 研究課題「金属多重結晶の疲労破壊と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」に関して他大学の研究者と共同研究を推進した。これらの結果に関して、JSME2017年度年次大会に参加し、現在、遂行中の研究課題“繰返し変形における過大荷重が後続変形挙動に及ぼす影響”に関して講演を行った。また、研究課題“Crystal Plasticity Analysis of Change in Incompatibility and Activities of Slip Systems in α -phase of Ti alloy under Cyclic Loading” International Journal of Mechanical Sciencesに掲載され、今年度の目標以上を達成した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 専門知識や大学教職員の立場を活かして社会貢献に努める。証拠資料は関連資料とする。実際に委嘱を受ける頻度は稀なため、業務ウェイトは0.05とするが、H25年度から毎年、評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | 0.05 | 産官学連携機構からの案内に応える形で、研究課題“金属材料の弾塑性変形と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析”にてNano tech 2018にポスターを出展し、今年度の目標以上を達成した。 | | |
| 管理 運営 | 0.25 | 学内の委員会委員など務めて管理運営に貢献する。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | 0.30 | 旧学科では広報委員会、学部では交通安全委員会と情報委員会を務めた。また、平成30年度一般入試(前期日程・後期日程)に係る調査書調査書審査委員を務め、今年度の目標以上を達成した。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|--|----|---------------------|--|
| 名前 | | 安田 啓太 | 所属 | | 工学部 工学科 エネルギー環境工学コース |
| 職名 | | | | 助教 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.15 | <p>講義科目は工学基礎演習、機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、および機械システム工学演習を担当する。学生がこれらの講義を通じてエネルギー環境工学や機械システム工学、関連する諸分野に対する理解を深めることのできるよう、具体的に分かりやすい講義を志して取り組む。それぞれの講義ではTAに教育的立場からの視点を持たせることで資質向上を目指す。</p> <p>また、機械システム工学科2年次の指導教員として各学生の個性を鑑みて学科提供の講義が主体となる今年度を滞りなく過ごせるよう指導する。</p> <p>卒業研究の担当学生3名について、これまでに学んできたことの集大成として卒業研究を取りまとめる過程で論理的思考能力の向上を目指す。</p> | | 0.15 | <p>講義科目として工学基礎演習、機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、および機械システム工学演習を担当した。工学基礎演習は新コース1年次向けの科目で複数教員の協力のもと指導にあたった。機械システム工学実験I、IIでは伝熱に係る現象を実験を通じて理解できるように指導した。機械システム工学演習では4年生を対象として流体工学・熱工学を背景とした題材を使用し、計画の実施からプレゼンテーションまで指導を行った。それぞれの科目において、TAの資質向上を目指し、主体的に教育活動を行うよう指導した。</p> <p>機械システム工学科2年次指導教員として、全体的な指導を行うとともに各学生がおかれた状況を鑑みて個別の指導も行った。</p> <p>卒業研究の担当学生3名とは日常から議論を交わし、卒業論文作成までの過程にて研究に関連した論理的思考能力の向上に努めた。</p> |
| 研究 | 0.70 | <p>クラスレートハイドレートと呼ばれる水と“ゲスト物質”からなる化合物の物性を明らかにする研究および「微小微量ミストを付加した衝突噴流熱伝達」に取り組む。</p> <p>研究成果はインパクト・ファクターが2を超える論文誌での発表を目指す。</p> <p>年度内に2編投稿、1編採択を目標とする。</p> <p>5月に開催される“The 13th International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flows”にて運営委員として活動する。</p> | | 0.70 | <p>「クラスレートハイドレート生成系の相平衡条件測定」「クラスレートハイドレート生成系の結晶観察実験」「微小微量ミストを付加した衝突噴流熱伝達」に取り組んだ。前2件は海水淡水化にかかわる研究、後1件は伝熱促進にかかわる研究である。</p> <p>研究成果として、「Journal of Chemical Thermodynamics誌(IF2016: 2.726)」に論文を1編発表した。また、「Chemical Science誌(IF2016: 8.668)」 「New Journal of Chemistry誌(IF2016: 3.269)」にそれぞれ論文を投稿中である。</p> <p>5月7日から11日にかけて開催された「The 13th International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flows」では、運営委員として企画から学会期間中の運営まで携わった。</p> |
| 社会 貢献 | 0.05 | <p>オープンキャンパスをはじめとした学外向けのイベント、「ちびっこエンジニア体験教室」などの社会貢献を目的としたイベントに積極的に参加する。</p> | | 0.05 | <p>学外向けイベントならびに社会貢献を目的としたイベントとして、7月15日に開催された「オープンキャンパス」および11月18日に開催された「ちびっこエンジニア体験教室」に委員として参加した。</p> |
| 管理 運営 | 0.10 | <p>工学部選挙管理委員・研究推進委員として各種選挙の公正な実施および研究活動の推進に努める。</p> <p>また、コースの時間割編成の担当にあたる。</p> | | 0.10 | <p>工学部選挙管理委員として教員選挙選挙にて公正な実施に努めた。</p> <p>工学部研究推進委員として、2回開催された選挙管理委員会に参加し、工学部の研究推進のための議論をした。</p> <p>また、時間割担当として機械システム工学科/エネルギー環境工学コースの時間割編成を担当した。</p> |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 宮田 龍太 | 所 属 | 工学部 工学科 エネルギー環境工学コース | 職 名 | 助教 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <p>新入生や編入生が有意義な学生生活を過ごすために必要な情報を講義や年次別懇談会で発信する。また、研究室配属された修士2年次および学部4年次が納得した進路を決定し、学位審査を通過できるよう細やかな指導を行う。さらに、有志学生を対象に情報処理技術者試験など研究関連資格の勉強会を主催する。</p> | | 0.30 | <p>講義や年次別懇談会で進学や就職活動で役立つ情報を発信した。また細やかな指導を行い、研究室配属された修士2年次および学部4年次は全員納得した進路を決定し、学位審査を通過した。うち修士2年次1名は理工学研究科長賞を獲得した。さらに沖縄高専と合同で有志学生を対象にバイオインフォマティクス技術者認定試験対策勉強会を6～11月に開催した。</p> | |
| 研究 | 0.40 | <p>OISTや沖縄高専など県内の研究機関と共同研究を行い、それらの成果をまとめて学会で発表し、学会誌への論文投稿を行い、採択を目指す。また、積極的に産学連携を行い、外部資金を獲得する。さらに、所属学会の沖縄地域部会におけるイベントの開催に携わる。</p> | | 0.40 | <p>県内を中心に様々な研究機関と共同研究を行い、それらの成果を学会で計19件発表した。富山大との共同研究成果1件が学術誌に論文掲載された。データ解析コンペティションでは代表としてチームを牽引し、部会での成果報告会で準優勝を獲得した。また、産学連携で計2件外部資金を獲得した。</p> | |
| 社会 貢献 | 0.10 | <p>オープンキャンパスや出前授業といった学外者対象のイベントに参加する。</p> | | 0.10 | <p>7月にオープンキャンパス、そして8月および2月に付属小学校で開催された理科の出前授業に参加し、学外者の方々に自分たちが携わっている研究について紹介した。</p> | |
| 管理 運営 | 0.20 | <p>学部および学科の管理運営における委員会委員としての職務を全うする。</p> | | 0.20 | <p>学部および学科の管理運営における委員会委員としての職務を全うした。</p> | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| <p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p> | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|--|-----|---------------------|---|
| 名 前 | | 金子 英治 | 所 属 | | 工学部 工学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部講義(電力工学1昼、夜)については小テスト、宿題をほぼ毎回課すことにより修得率向上を図る。本年度は不可率10%以下を目指す。大学院講義(特論)についてもレポートを課し、修得率100%を目指す。研究室学生の就職支援を積極的に行い、年内の進路決定100%を目指す。外部論文発表では、修士学生については海外論文発表、学部学生には学外発表100%を目指す。 | | 0.25 | 年初予定についてはほぼ目標達成した。就職については公務員希望が2名おり完結はしなかったが、本人の希望であり、予定でもあるので、これを含めてほぼ目標通りという表現となった。 |
| 研究 | 0.30 | パワアカデミー共同研究の推進、とりまとめを完遂する。共同研究3大学全員参加の共同実験を琉球大学にて2回以上実施する。企業(TM EIC、明電舎、戸上電機)との共同研究の推進、とりまとめを完遂する。年度初め、年度末の報告会を実施し学生を同行させ説明、結果発表をする。関連の論文発表を10件以上行う。 | | 0.35 | パワアカデミーについては琉球大学での合同実験は4回実施することができ、新しい発見を多数行うことに成功した。企業との共同研究もとりまとめができ、本学における研究の集大成を行うことができた。論文発表等の数値目標は達成することができた。 |
| 社会貢献 | 0.20 | JEC役員会に出席し、規格制定について貢献する。ポリテク運営委員会委員として運営に貢献する。電気学会調査専門委員会、技術委員会において、調査等を行い学会活動に貢献する。国際会議ICEPE-S Tの国際運営委員会として運営に貢献する。各種学会の論文査読に貢献する。10件以上は完遂する。モンゴルとの学術交流に参加し、交流会沖縄開催実施、モンゴルでの集中講義の実施を実現する。電気学会、放電学会などの研究会、年次大会など研究集会を3件実施する。 | | 0.20 | 年初予定は全て目標数値を達成した。モンゴルについては、大学部局間協定の締結につなげることに成功し、今後につなげることができた。また、雷評定システムをモンゴル科学技術大学に設置することができ、世界規模の研究グループに加わってもらうことにも成功した。 |
| 管理運営 | 0.20 | 専攻主任として電気電子工学専攻の運営に貢献する。高電圧実験棟の設備処分を計画的に実施し、年度末の引き渡しを順調に完遂する。研究資産の引き渡しと、ドキュメント等の処分を、宿題無く完遂する。 | | 0.20 | 専攻主任については問題なく業務を遂行できた。また、来年の入学者についても定員を確保できた。高電圧実験棟の研究設備については東京大学、横浜国大への移管について準備ができ、マニュアル等の引き渡しにより研究継続を行うことができた。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 米須 章 | 所 属 | 工学部 工学科 電気システムコース | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 電磁気学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気数学Ⅳ、プラズマ工学特論を担当し、社会の要求を満たす水準の講義を行う。また、講義中に学生への質問などを行うことにより、学生が積極的に講義に取り組めるよう工夫する。研究室に配属された学生に対して就職指導および進学指導を行い、全員が希望の進路へ進めるよう支援・指導を行う。 | | 0.40 | 予定通り、電磁気学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気数学Ⅳ、プラズマ工学を担当した。各講義では、毎回、小テストや講義中の学生への質問等を行い、学生が講義に積極的に取り組めるように工夫した。これらの結果、学生によるアンケートでも評価は高かった。また、研究室に配属された院生・卒研生7人に対し、進路について指導を行った。結果、1名が必修科目を落とし、卒業することができなかったが、残り6人は就職・進学が決定した(就職5人、進学1人)。以上より、目標をほぼ達成することができた。 | |
| 研究 | 0.25 | プラズマ滅菌に関する研究を進め、成果を学術論文へ1件、国際会議などに2件以上投稿する。また、企業と共同研究を行い、外部資金の獲得を目指す。九州大学との共同研究を進める。 | | 0.25 | プラズマ滅菌に関する研究をすすめ、その成果を院生が3件の国際会議(国内1、国外2)、2件の国内研究会で発表を行った。(その他、3月に国際会議に3件発表予定)。その成果をVacuumへ投稿した(現在査読中)。また、Plasma Medicineへの掲載が決定した。さらに、サラヤ株式会社との共同研究を行い、外部資金を獲得した。また、プラズマ滅菌について九州大学との共同研究を行った。以上より、目標を達成することが出来た。 | |
| 社会貢献 | 0.15 | 継続中の企業との共同研究を進め、プラズマ滅菌装置の実用化を目指す。 | | 0.15 | サラヤ株式会社と共同研究を行い、プラズマ滅菌装置へ搭載予定のプラズマガス処理システムの開発をすすめた。以上より目標を達成することができた。 | |
| 管理運営 | 0.20 | 学士教育プログラム委員会委員、大学院教育プログラム委員会委員、施設環境委員会委員、社会連携委員会委員、電磁気学科目検討委員会委員長、電気数学科目検討委員会委員、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、教育委員会委員、安全委員会委員として積極的に活動する。 | | 0.20 | 学士教育プログラム委員会委員、大学院教育プログラム委員会委員、施設環境委員会委員、社会連携委員会委員、電磁気学科目検討委員会委員長、電気数学科目検討委員会委員、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、教育委員会委員、安全委員会委員として積極的に活動した。以上より、目標を達成することができた。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|
| 名 前 | 千住 智信 | | 所 属 | 工学部 工学科 電気システム工学コース | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <p>前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学、電気法規及び施設管理(昼間主コース及び夜間主コース)、後期:電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を助ける。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生5名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究学生5名)を行う。</p> <p>研究室所属学生(博士前期課程4名)の就職指導と進学指導を綿密に行い、研究室学生の進学・就職支援を行う。また、研究室所属学生の進学に関してTOEFLの受験指導を行うと共に、進学に必要な受験勉強の指導を行う。</p> | | 0.30 | <p>前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学、電気法規及び施設管理(昼間主コース及び夜間主コース)、後期:電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を促進した。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生5名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究学生5名)を行った。</p> <p>研究室所属学生(博士前期課程4名)の就職指導と進学指導を綿密に行い、研究室学生の進学・就職支援を行った。また、研究室所属学生の進学に関してTOEFLの受験指導を行うと共に、進学に必要な受験勉強の指導を行った。なお、博士前期課程ならびに学部学生の進学就職率は100%である。</p> |
| 研究 | 0.20 | <p>研究論文3編以上の採択を目指す。科学研究費補助金の採択を目指す。外部資金獲得のために、各種財団へ研究助成金の申請を行う。さらに、企業との共同(受託)研究を実施する。海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表するとともに、学術交流を図る。</p> | | 0.20 | <p>研究論文7編を学術論文誌で発表した。科学研究費補助金が採択された。外部資金獲得のために、沖縄県が公募したプロジェクトに応募し、採択された。さらに、企業との共同(受託)研究を実施した。海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表した。国際学術論文誌であるMDPIの学術論文EnergiesのEditorial Board Memberを務めました。第62回(平成29年度)濫澤賞を受賞しました。さらにWileyから出版されたAdvances in Electric Power and Energy Systems: Load and Price Forecastingの一部を執筆しました。</p> |
| 社会 貢献 | 0.20 | <p>NEDO技術委員を務める。また、浦添スマートシティ基盤整備株式会社投資管理常任委員会委員を務め、沖縄におけるスマートシティの建設に関し助言を行う。国際会議であるIEACon 2017の査読委員を務める。また、電気学会、IEEE等の論文査読を行う。新学科への受験学生を増加させるための試みとして、オープンキャンパスにおいて中高生対象の物づくり教室を開催する。また、沖縄県青少年科学作品展において物づくり教室を開催する。</p> | | 0.20 | <p>NEDO技術委員を務めた。また、浦添スマートシティ基盤整備株式会社投資管理常任委員会委員を務め、沖縄におけるスマートシティの建設に関し助言を行った。国際会議であるIEACon 2017の査読委員を務めた。また、電気学会、IEEE等の論文査読を行った。新学科への受験学生を増加させるための試みとして、研究室説明ブースを出展した。IT津梁まつり、沖縄県青少年科学作品展において物づくり教室を開催した。</p> |
| 管理 運営 | 0.30 | <p>下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与する。学科内では学部入学者選抜委員会委員長を務める。工学部では、代議委員会委員、入学試験委員会委員、国際交流委員会委員、研究推進委員会委員、情報委員会、副学部長を務め、さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事する。</p> | | 0.30 | <p>コース、学部、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与した。コースの学部入学者選抜委員会委員長を務めた。工学部では、代議委員会委員、入学試験委員会委員、国際交流委員会委員、研究推進委員会委員、情報委員会、副学部長を務め、さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事した。</p> |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 浦崎 直光 | 所 属 | | 工学部 工学科 電気システム工学コース | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン入門: 工学共通の新規科目であり、取り纏め役として、各教員がスムーズに講義できる環境を整える。 ・電気数学Ⅲ／電気機器設計製図 従来からの資料提供に加えて、出題や出欠状況の開示など、WebClassの活用を拡大した講義を行う。 | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・新規科目である「キャリアデザイン入門」を問題なく実施することができた。また、コース変更に関する意向調査を行い、工学部教育委員会にフィードバックできた。 ・担当した2科目に関しては、当初の計画どおり、Webclassを活用した出題ならびに学生への出欠状況の公開ができた(学生からの反応もあった)。 ・研究室に配属されて5名の学部学生については、進路指導を行い、3名が大学院進学、2名が就職先を確定できた。 | | |
| 研究 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも1件の研究成果発表(学会発表、論文投稿)を行う。 ・外部資金に応募する。 | | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導した大学院生が2件の口頭発表を行った。 ・科研費の基盤研究(C)に応募した。 ・コースならびに旧学科の管理運営や学会開催の業務を優先したため、研究活動時間の確保に苦労した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・産官学関連の行事に積極的に参加する。 ・技術相談等の要求があった場合は適切に対応する。 ・琉球大学で開催される電気・情報関係学会九州支部連合大会の大会副委員長として、大会運営を行う。 | | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・電力系統技術推進委員会の委員長として、2回の会合を取りまとめた。 ・琉球大学で開催された電気・情報関係学会九州支部連合大会の大会副委員長としての責務を果たし、成功裡に終わることができた。 | | |
| 管理 運営 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・電気システム工学コース長(電気電子工学科長兼任)として、電子情報通信コースを含めた電気系学科・コースの管理運営を行う。また、役職指定された各種委員会に出席し、工学部全体の運営のサポートを行う。 | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学科長兼任として、ほぼ毎週開催された電気システム工学コースと電子情報通信コースの合同会議の議長を務めた。また、工学部事務からの両コースへの照会の取りまとめを行い、おおむね期限内に対応した。 ・工学部各種委員会もしっかり対応した。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|--|---|--|
| 名 前 | 比嘉 広樹 | | 所 属 | 工学部 工学科 電気システムコース | |
| 職 名 | | | 職 名 | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.38 | (1)学部の講義(前期:技術者の倫理、Introduction to Biomedical Engineering、後期:回路理論I、プログラミング応用、工学概論)を担当し、URGCCの推進に努める。 (2)大学院の講義(医用電子工学特論)と学部の講義(Introduction to Biomedical Engineering)では、英語による講義を実施する。また最新の研究成果を受講学生に提供する。 (3)4年次指導教員を担当し、学生の修学に関する指導を行う。 (4)研究室配属学生の進路希望を調査し、早期に適切な進路を決定できるように指導する。 | 0.38 | (1)今年度、学部の講義(技術者の倫理、Introduction to Biomedical Engineering、プログラミング応用、回路理論I、工学概論1コマ)を担当し、URGCCの基準を満たす講義・演習指導を行った。 (2-1)大学院の担当講義(医用電子工学特論)と学部の講義(Introduction to Biomedical Engineering)では、すべて英語による講義を行い、最新の研究成果と最近の話題を受講学生に提供した。期末試験やアンケート等の結果から、ほとんどの受講学生が講義内容を理解できていることが確認できた。 (2-2)昨年度と同様に、Frontiers of Engineering の講義(1コマ)を担当し、英語による講義を行い、生体医工学に関する最新の話題を提供した。課題の結果から、受講学生が講義内容を理解できていることが確認できた。 (2-3)医学部にて、学部の講義(医用電工学)を担当した(2コマ×8週間)。演習や期末テストの結果から、受講学生が講義内容を理解できていることが確認できた。 (3)担当した4年次学生に対し、適切な修学指導を行えた。 (4)研究室の大学院生1名と学部学生5名の進学・就職に関する指導を行い、全員の進路と就職先が決定した。 | |
| 研究 | 0.32 | (1)研究成果の発表を1件以上行う。 (2)外部資金の獲得に努める。 (3)本学医学部や他の医療機関との共同研究を行い、臨床現場で利用可能なシステム開発に取り組む。 (4)IEEE EMBC等の論文査読を行う。 | 0.32 | (1)研究室学生と共著で投稿した原著論文4編が採択された。 (1-2)研究室学生を指導し、国際会議において英語による研究発表3件(OIST(11月))を行わせた。また国内にて研究発表(琉球大学工学部、9月に3件、12月に3件)を行わせた。 (1-3)高校生を研究指導し、電子情報通信学会学生会九州支部大会にて1件、OISTで開催された国際会議にて1件の研究発表を行わせた。 (2)本年度、科研費の獲得には至らなかった。来年度も引き続き、外部資金の獲得に努める。 (3)本学医学部との共同研究を実施し、AR(Augmented Reality)を用いた医療支援システムの開発に取り組んだ。 | |
| 社会貢献 | 0.15 | (1)出前講座を実施し、地域の高校生に対して工学科のPRを行うとともに、研究成果の一部を社会に還元できるように努める。 (2)オープンキャンパス等のイベントを活用して、積極的に研究紹介を行い、研究成果の情報発信を行う。 (3)地域の小・中学生らに研究内容を紹介し、電気電子工学分野の楽しさ・面白さを伝える。 | 0.15 | (1-1)宮古高等学校(12月18日、受講者:1、2年生、約30名)にて出前講座「人に電気をつないでみると・・・」と「君にできる!オリジナルロボットのつくり方」を実施し、生体医工学分野の紹介を行った。また電気系2コースの紹介もを行い、新しい入試制度について周知した。アンケートの結果等から本講座が好評であることが判明し、研究成果の一部を地域社会に還元できた。 (1-2)那覇工業高等学校の教諭と高校生が研究室に来室し、技術交流を行った。研究室学生と高校側の双方に良い刺激を与えるきっかけとなった。 (2)学内にて開催されたオープンキャンパスにて参加者(高校生や高校教諭)に研究紹介を行った(7月15日)。 (3)琉球大学教育学部附属中学校の生徒が研究室に来室し、研究成果のデモンストレーションを行い、電気電子分野の楽しさ・面白さを伝えた(2月20日)。 | |
| 管理運営 | 0.15 | 学部、学科の各種委員会活動を積極的に行う。 | 0.15 | (1)大学院改組WG、学部の研究推進委員会、安全衛生委員会、学科の情報教育委員会と科目検討委員会(回路理論関係)に関連する活動を積極的に行った。 (2)教授職委員会の執行部委員として活動を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 山本 健一 | 所 属 | | 工学部 工学科 電気システムコース | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 前学期では2科目(学部1, 大学院1), 後学期では2科目(学部)の講義等を担当予定。全科目でシラバスにのっとった授業を行うとともに、学部授業では講義資料配布と学生の理解度向上を目的として科目ホームページを開設・利用する。大学院講義では英語教材を用いて授業を行う。卒業研究ならびに大学院学生の論文作成指導を行うと共に、就職活動指導を行う。また、学部2年次およびM1指導教員を務める。 | | | 0.30 | 学部3科目, 大学院1科目の講義を担当し, シラバスの通りに実施できた。学部科目ではホームページを科目教育に活用し, 大学院では講義ならびに特別演習において英語教材を用いた。卒業研究(3名)ならびにM2(2名)の研究指導, 論文指導を行うと共に, 就職活動の指導ならびに推薦書作成に携わった。学部2年次およびM2の指導教員としての諸業務は滞りなく行うことができた。 | | |
| 研究 | 0.40 | 修士学生, 学部学生と共に磁性材料とその応用に関する研究を行う。外部資金獲得のため科研費などに応募する。 | | | 0.40 | 修士学生と共に, 面圧縮力下での直流磁気測定法の開発と電磁鋼板における測定結果を行い国内学会にて成果を発表できた。磁気探査技術に関する研究は外部資金の援助を受けて遂行し学会発表できた。科研費に1件応募した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 各種委員会(電気学会電力用磁性材料の評価活用応用技術調査委員会, IEC-TC68, 日本磁気学会編集委員)活動に参画する。 | | | 0.15 | 国内各種委員会に参加し, 学会の運営に携わった。専門委員会では同様に幹事として運営に携わると共に, 情報収集に努めた。 | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 教授会, 専攻会議, 学科/コース会議をはじめ学内の各種委員会に参加し, 組織の管理運営に携わる。 | | | 0.15 | 各種学内の会議, 委員会活動にて出席し, 管理運営に携わった。工学部情報委員会においては, 2コースのデータ取りまとめなど行った。 | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 長堂 勤 | 所 属 | 工学部工学科電気システム工学コース | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 学部担当科目(制御工学、システム工学、工業数学II、制御工学II、電気電子計測工学II、卒業研究、セミナー)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また授業アンケートの結果に対応する。指導教員を担当する年次の学生に対し、相談に対応する。 | | 0.40 | 学部担当科目については、ほぼJABEEの基準を満たす講義が行えたものとする。特に工業数学IIIにおいては今回小テストを毎回実施し、計算能力の向上を図った。 | |
| 研究 | 0.40 | 研究論文の採択を目指す。国内外で研究発表を行う。今年度の目標として、査読付き論文1編以上、国際・国内学会発表1件以上とする。 | | 0.40 | 査読付き学術論文については掲載および掲載決定には至らなかった。国内学会については1件、自ら発表を行った。 | |
| 社会貢献 | 0.15 | 沖縄職業能力開発大学の非常勤講師を担当し、職業訓練を担うことで地元へ貢献する。またオープンキャンパスに積極的に取り組む。 | | 0.15 | 前学期において沖縄職業能力開発大学で講義(制御工学)を担当し、地域貢献を行った。またオープンキャンパスに参加し、地元高校生へ電気・電子・情報工学の有用性・重要性を説明した。 | |
| 管理運営 | 0.05 | 電気系コース教育委員会、学部研究推進委員会、交通指導委員会などの委員会活動に積極的に参加する。 | | 0.05 | 電気系コース教育委員を担当し、定例の作業および学習サポートルームの事務作業を行った。学部研究推進委員会、交通指導委員会については両コースの意見の提出や審議結果の報告等を行った。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 半場 滋 | 所 属 | | 工学部 電気システム工学コース | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.45 | (1)電気数学IV(昼間主コース)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(2)非線形制御特論(大学院)の講義資料を改訂し、講義内容の充実をはかる。(3)エンジニアリングデザイン講義(昼・夜間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(4)数値解析(昼間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(5)卒研生および大学院生の研究指導では、学生の自主性を重視した指導をおこなう。 | | | 0.50 | (1)電気数学IVでは学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意つつ講義をおこなった。受講者86名中出席日数不足で不可になったものが7名で、不可は10名、不可率は11.6%である。出席日数の条件を満たす者に限定すれば不可率は3.5%である。(2)非線形制御特論では英文で講義資料を作成して講義をおこなった。履修者は日本人学生17名、留学生3名で、全員単位を修得した。(3)エンジニアリングデザイン講義において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義をおこなった。授業評価アンケートにおいて、91.3%の受講者が「講義資料は適切であった」と回答し、87.0%の受講者が「講義の説明は理解し易かった」と回答している。(4)数値解析において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義をおこなった。履修者数は70名で、不可2名であり、不可率は2.9%である。不可の学生はいずれも出席日数不足であり、出席日数の条件を満たす者に限定すれば不可率は0%である。(5)卒研生および大学院生の研究指導では、研究テーマを学生自身に決めさせるなど、学生の自主性を重視した指導をおこなった。卒業研究の単位を修得した学生は2名で、1名は進学、1名は就職であり、進路決定率は100%である。 | | |
| 研究 | 0.40 | (1)制御理論に関する研究を進め、年度内に1本以上論文を投稿する。(2)科研費に基盤研究Cあるいは萌芽研究として応募する。(3)査読者として、投稿論文の査読をおこなう。 | | | 0.30 | (1)論文は準備中である。(2)科学研究費補助金挑戦的萌芽研究に応募した。(3)Automatica誌1件、Asian Journal of Control誌7件、ICT-ROBOT2017(国際会議)1件、合計9件の査読をおこなった(再査読を含む)。 | | |
| 社会 貢献 | 0.05 | (1)講義資料や出版済み論文などを、著作権上問題がない限りにおいて、適宜ホームページにて公開する。(2)卒業研究や博士前期課程の研究に関する情報をホームページで公開する。(3)計測自動制御学会九州支部事業幹事および顧問の業務をおこなう。 | | | 0.10 | (1)講義資料をホームページで公開した。(2)卒業研究や博士前期課程の研究に関する情報をホームページで公開した。(3)計測自動制御学会九州支部事業幹事および顧問の業務をおこなった。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 工学部代議員、附属図書館運営委員会委員、工学部・高専教育研究推進委員会委員、実験検討委員会委員、学部入学者選抜委員会委員、大学院入学者選考委員会として適切な活動をおこなう。 | | | 0.10 | 工学部代議員、附属図書館運営委員会委員、工学部・高専教育研究推進委員会委員、実験検討委員会委員、学部入学者選抜委員会委員、大学院入学者選考委員会として適切な活動をおこなった。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---------------------|---|----|
| 名 前 | | 長田 康敬 | 所 属 | | 工学部 電子情報通信コース | 職 名 | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.25 | <p>(1) 学部の講義:情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」、「情報理論」を担当し、この分野の新しい技術を紹介していくことに努める。昼間主・夜間主の合同講義に切り替えていく。</p> <p>(2) 上記の学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し、出版できるよう引き続き準備を進める。「情報数学入門」は共著で出版の準備中である。「情報理論」は森北出版と出版に向けての打ち合わせ中である。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成したの、さらに加筆して、講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術の習得を目指す。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆し、これに基づいて実践的な指導を行なう事を計画している。場合によっては、学科や研究科の枠を超えて改善に取り組む。</p> | | | 0.25 | <p>(1) 学部の講義は情報関連の講義である「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」、「情報理論」を担当し、この分野の新しい話題や技術を紹介できた。「情報数学」が昼間主・夜間主の合同講義(5時限目)となった。</p> <p>(2) 上記の学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し、出版の準備を進めた。「情報数学入門」は共著で出版の準備中である。「情報理論」は森北出版と出版の打ち合わせを2度行なった。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成し、講義の最初の4週で使用した。この分野の概論と基本的な技術を講義した。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆中である。引き続き、加筆・訂正等を行なう。</p> | |
| 研究 | 0.25 | <p>(1) 複数の科研費のプロジェクトに参加し、推進していく計画である。プロジェクトは他学科および沖縄高専との共同研究となる。今年は独自の科研費の申請を行う予定である。</p> <p>(2) 科研費以外の研究資金を確保できるよう各種助成金に応募する予定である。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装を行なっていく。特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価する。本年度は国際学会での発表と院生の論文投稿に力を入れていく計画である。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文再投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なう計画である。</p> <p>(5) 学会活動:電気・情報関係学会九州支部連合大会が沖縄開催であり、開催地実行副委員長を務める。</p> <p>(6) 学会活動:Okinawa型ドローン・サステナブルシステム協同研究会委員を務める。</p> <p>(7) 学会活動:多値論理研究会の委員を務める。</p> | | | 0.25 | <p>(1) 情報工学科との科研費のプロジェクトに参加し、推進した。この科研費は本年で終了したので報告書にまとめた。今年は独自の科研費の申請を行なった。</p> <p>(2) 科研費以外の研究資金、各種助成金の獲得には至らなかった。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装を行なった。非同期システムや耐故障システムに関する回路の論文の投稿準備を行なった。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文再投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なった。</p> <p>(5) 学会活動:電気・情報関係学会九州支部連合大会が沖縄開催であり、開催地実行副委員長を務めた。特別講演の東北大学名誉教授の亀山教授の招聘し特別講演を執り行なった。</p> <p>(6) 学会活動:Okinawa型ドローン・サステナブルシステム協同研究会委員を務め、2件の研究発表を行なった。</p> <p>(7) 学会活動:多値論理研究会の委員を務めた。</p> | |
| 社会貢献 | 0.15 | <p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発に着手し、地元のニーズに応える。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し、地域の特性に沿った物づくりを行なう予定である。</p> <p>(3) ハンディーキャッパ用音声関連の研究に着手する。</p> | | | 0.15 | <p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発を行ない、特にリープモーションコントローラを用いたシステムの開発を行なった。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するため、(株)メディアトランスポートとのプロジェクトに参加した。</p> <p>(3) ハンディーキャッパ用音声関連の研究を行ない、研究会で成果発表を行なった。</p> | |
| 管理運営 | 0.20 | <p>(1) 工学部の社会連携委員会委員および情報委員会委員として関連事項の役割を果たしていく予定である。</p> <p>(2) 学科の計算機システム管理運営委員会委員長として、役割を果たしていく予定である。</p> <p>※入試問題等、匿名を有する委員会の活動については、委員会名は記載せず、単に「委員会委員」とし、具体的な内容は記載しないでください</p> | | | 0.20 | <p>(1) 工学部の社会連携委員会委員および情報委員会委員として関連事項の仕事を行ない、特に就職関連のイベントを執り行った。</p> <p>(2) 学科の計算機システム管理運営委員会委員長を務め、ハードウェアの交代やメンテナンスを行なった。</p> <p>※入試問題等、匿名を有する委員会の活動については、委員会名は記載せず、単に「委員会委員」とし、具体的な内容は記載しないでください</p> | |
| 進路指導 | 0.15 | <p>(1) 卒研究生の進路指導を徹底し、それぞれの希望ができるだけ叶うよう指導をしていく。そのため、就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なっていく。</p> <p>(2) 院生の就職指導を特別に行ない、研究所や大学等への就職情報を多く提供できるようにする。</p> | | | 0.15 | <p>(1) 卒研究生の進路指導を行なった。全ての卒研究生の就職が決定した。</p> <p>(2) 今年は就職する予定の院生がいなかった。</p> | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 野口 隆 | 所 属 | 工学部 工学科 電子情報通信コース | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.00 | 大学院の教育は、英語のプレゼンができるように講義のなかで、またゼミの中でも英語で発表できるように指導する。進路指導担当であるが、具体的に会社などと積極的に連絡をとり、求める人材の情報、推薦枠をとり、就職指導、進学指導を行う。学部3年生の指導教員として指導。 | | 0.30 | 進路(就職)指導、特に、大手企業2社に新しく本学科の推薦枠をお願いし、枠をいただき、学生を支援した。修論指導はプレゼンを英語で指導した。大学院の講義、学部の専門講義で英語、日本語で効果的にプレゼンテーションができるように指導した。応用物理学会で学生が発表し奨励賞を受賞(修士)。博士学生(主査)の学位論文指導した(学長賞候補)。 | |
| 研究 | 0.00 | 国際会議で実験結果に基づいた研究成果を発表する。3件以上JOURNAL(正規論文)に投稿する。特許出願を行う。研究委員として、学科、コースの研究活性化を具体的に促す・学会では、委員として積極的に研究会を運営する。 | | 0.25 | 国際会議で招待(2件)を受け、発表した(全10件ほど発表)。論文は4件投稿して2件が掲載された(現在、2件を投稿前)。昨年度からの共同研究の成果で、特許1件出願。フレキシブル基板上に移動度の高いTFT(薄膜トランジスタ)が試作でき、国際会議発表前。コース、学科内会議で論文、特許出願を薦めた。 | |
| 社会 貢献 | 0.00 | 国際会議、国内では応用物理学会の委員として、学会運営で貢献する。 | | 0.20 | ディスプレイの国際会議、IMID、IDW、半導体の会議AWAD、ITCの委員で貢献。応用物理学会、薄膜半導体のセッションでシンポジウムを開催してリードし、セッションを盛り上げた。 | |
| 管理 運営 | 0.00 | コース長として、学科長と協力して、電気システムと協調しながらコースの運営、リードする。国際交流委員として具体的に活動し、貢献する。(韓国の湖西大学を大学間交流レベルで締結し、実際に学生を受け入れ、できれば学生を送る。中国の大学と部局間交流を締結する。) | | 0.25 | コースの運営は、学科長(電気システム)と協力して推進した。国際交流では、部局間交流を中国の厦門理工学院と締結できた。韓国の湖西大学とは、交流会を沖縄と韓国で2回開催し、訪問し湖西大学の学部長と会談して、今後のインターンシップも可能にしている。 | |
| 計 | 0.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 山里 将朗 | 所 属 | | 工学部工学科 | 職 名 | | 教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 学部担当科目(電子物性工学Ⅰ, 量子力学Ⅰ, 電子デバイス工学Ⅰ, 回路理論Ⅰ)を担当し, 学習教育到達目標を満たす講義を行う。回路理論Ⅰでは, 演習課題を毎週返却し, 知識の定着を図る。大学院では, 電子物性工学特論を担当し, 英文テキストを用いて, 輪講形式で行う事で, 学生の英語能力並びに自主学習能力促進をはかる。また, 研究室配属学生に対して就職, 進学指導を行う。 | | | 0.25 | 学部講義において担当科目の講義を行った。講義資料を作成, 配付し, 学生の理解を深めるように努めた。また, 大学院では英語テキストによる講義を行ない, 研究室学生の進路指導を行った。 | | |
| 研究 | 0.25 | 国際会議や原著論文をの採択及び外部資金獲得を目指す。実社会に応用できる技術の研究開発に努める。 | | | 0.25 | 外部助成金1件ならびに研究紹介及び発表を2件行った。しかし, 原著論文として成果まとめきれておらず, 来期に論文として発表する必要がある。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 高校訪問やオープンキャンパス等を通して, 電気電子工学の社会における役割を紹介する。 | | | 0.25 | オープンキャンパスで当学科の内容を紹介した。また, 沖縄高専, 内閣府とともに沖縄未来半導体研究会を発足させ, 研究会を4回開催した。これまでにのべ50機関以上, 100名あまりの参加者により, 沖縄での新規製造業進出について検討を行っている。 | | |
| 管理 運営 | 0.35 | 専攻主任として, 適切な専攻運営を行う。また, 安全委員会委員長, JABEE委員長, 回路理論関係科目検討委員会委員長, 電子物性関係科目検討委員, 将来計画委員として, 学科及び学部運営に関わる。 | | | 0.25 | 教育改善委員会委員長として外部評価委員会を開催した。また, 工学部安全衛生委員会委員長として, 有害危険業務への作業指針の作成, 工学部安全衛生マニュアルの作成の他, 各委員会活動を行った。 | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 景山 弘 | 所 属 | | 工学部 電子情報通信コース | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|-----|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 昨年度と同様に、1年次対象の工業数学Ⅰ(旧科目名:電気数学Ⅰ)および電磁気学Ⅰ、ならびに、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当する予定である。昨年度と同様に、毎回の講義において小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮する。また、小テスト・演習を毎週返却する際に模範解答を示すことで、学生がその場で自己評価できるように配慮する。 | | 0.40 | 1年次対象の工業数学Ⅰ(旧科目名:電気数学Ⅰ)および電磁気学Ⅰ、ならびに、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当した。昨年度と同様に、毎回の講義において小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮した。問題数については、昨年度に比べて1.5倍程度に増やし、計算力の向上に努めた。また、小テスト・演習を毎週返却する際に模範解答を示すことで、学生がその場で自己評価できるように配慮した。 | | | |
| 研究 | 0.40 | 昨年と同様に、有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行う。研究成果は、論文あるいは学会発表の形で公表する。なお、少なくとも、1件以上の論文投稿あるいは学会発表を行うことを目標とする。 | | 0.40 | 昨年と同様に、有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行った。研究成果は、国際会議にて発表した(1件)。また、査読付き論文に投稿し、受理された(1件)。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 電子情報通信学会 有機エレクトロニクス研究専門委員会委員を務める。また、学外委員会委員(1件)を担当する。 | | 0.10 | 電子情報通信学会 有機エレクトロニクス研究専門委員会委員を務めた。また、日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員・書面評価員を2年勤めた。本件に関して、有意義な審査意見を付し、公正・公平な審査に貢献したとのことで、表彰された。 | | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 予算委員会、教育改善委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、代議員、施設・環境委員会、レク担当の各委員を務め、学科・学部運営に参画する。 | | 0.10 | 予算委員会、教育改善委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、代議員、施設・環境委員会、レク担当の各委員を務め、学科・学部運営に参画した。 | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 金城 光永 | 所 属 | | 工学部 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|---|---------------------------------------|-----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部担当科目として新コース1年次学生向け科目のエンジニアデザイン基礎、屋間主コース2年以上学生向け科目の電子回路I、同II、同サポートルーム、量子力学IIを担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し、量子計算機のソフトウェアとハードウェアに関する講義を日本語及び英語にて行う。さらに学部屋間主コース3年次の指導教員として、年次別懇談会、オフィスアワーなどを利用し、学生の大学生活および履修指導を行う。また、研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行う。 | | | 0.30 | 学部担当科目として新コース1年次学生向け科目のエンジニアリングデザイン基礎、屋間主コースにおける電子回路I、同II、同サポートルーム、量子力学IIを担当し、JABEEおよびURGCCの基準を満たす講義を行った。またFrontiers of Engineeringの1回分(11/27)を担当し英語による講義を行った。さらに、大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し、量子計算機に関する講義を日本語及び英語にて行った。さらに学部屋間主コース3年次の指導教員として、年次別懇談会、オフィスアワーなどを利用し、学生の大学生活および履修指導を行った。また、研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行った。 | | |
| 研究 | 0.30 | 大学院生および学部生と共に、他大学とも連携して量子計算機の実現に向けたソフトウェア面およびハードウェア面の基礎的研究開発に努める。また、その成果をもとに国内外学会発表および学術論文など1件以上の投稿を目指す。 | | | 0.35 | 大学院生および学部生と共に、他大学とも連携して量子計算機の実現に向けたソフトウェア面およびハードウェア面の基礎的研究開発に努めた。その成果をもとに国内および国際学会にてそれぞれ1件ずつ発表し、学術論文1が件採択された。さらに現在学術論文1件を投稿・査読中である。 | | |
| 社会貢献 | 0.20 | 当該大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」と連携・協力し、電気電子工学分野の普及目的で、地域の小学生高学年に対して同分野への興味を持ってもらうため、公開講座として簡単な電子工作教室を1件企画運営する。 | | | 0.20 | 大学COC事業と連携・協力し、地域の小学生高学年に対する電気電子工学分野への興味を持ってもらう目的で、公開講座として簡単な電子工作教室を1件(工学部2号館、7/23)、企画運営した。その際、小学生と大学生がマンツーマンで触れ合える環境を用意し、小学生がより身近に工学を感じられるよう工夫した。 | | |
| 管理運営 | 0.20 | 学部情報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し、各種情報化に関する方策や対策に携わる。また、学科広報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し、去年度に引き続き、改組に伴う情報公開に努める。さらに、学科教育改善委員会委員として委員会活動に積極的に参加し、達成度評価ファイルの改善等の教育環境維持・管理体制のチェック・推進に努める。 | | | 0.15 | 学部情報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し、各種情報化に関する方策や対策に携わった。また、学科広報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し、学科広報誌などの作成に携わった。さらに、学科教育改善委員会委員として委員会活動に積極的に参加し、達成度評価ファイルの改善等の教育環境維持・管理体制のチェック・推進に努めた。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 岡田 竜弥 | 所 属 | | 工学部 工学科 電子情報通信コース | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.35 | 学生実験において、その場で考えながら進められるよう工夫するとともに、結果、考察などきちんとレポートにまとめられるよう指導する。また4年次指導教員として、年次別懇談会や履修指導などを通じて、卒業に向けて計画的に履修を進めるよう指導する。 | | | 0.35 | 学生実験では課題毎にその場でグラフ等まとめ、実験結果について考察し説明できるよう促し、考察結果を含めてレポートにまとめるよう指導した。基礎実験では提出されたレポートについて改善点など個別に指導した。年次指導教員として懇談会を開催し、これまで修得してきた科目を生かして卒業研究に取り組むよう指導した。 | | |
| 研究 | 0.35 | 学会で研究成果を発表するとともに、2本以上を目標に論文にまとめ投稿する。また科研費やJSTなどの外部資金獲得に向けて、積極的に応募する。 | | | 0.35 | 共著も含め9件の国内学会、10件の国際会議で研究成果を発表した。また2件の論文が掲載され、1件の特許を出願した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 他の業務に支障のない範囲で、研究会への参画など積極的に行ない、研究成果を発信する。 | | | 0.10 | 電気情報関係学会九州支部連合会の現地実行委員として活動した。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | 4年次指導教員の連絡係として、また学科や学部の各委員会の委員として責任をもって業務に取り組む。 | | | 0.20 | 4年次指導教員の連絡係として調整や実務に取り組み、実験検討委員会などの委員として責任をもって活動した。 | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 曾根川 富博 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 前期の4年電子システム工学実験, 3年電気電子システム工学実験I, 後期の3年電気電子システム工学実験IIでの、受講生の理解度を深めPCを利用した報告書作成方法の理解がえられるよう指導を行う。年次指導教員を担当している組については、学生の修学状況の把握をしっかり行い、取得単位漏れによる卒業不可能者が出ないようにする。研究室配属学生について、進路に関する指導を密に行う。 | | 0.45 | 電子・システム工学実験および電気電子工学実験I, IIでの指導において、学生から提出されたレポートについて、PCを使用した図表の作製方法の説明、添削を行うことで、翌週のレポートのグラフや図表の完成度を上げることができた。卒業研究を担当している学生について、積極的に就職活動をおこなわせ、報告会、ゼミ等の日程調整を積極的に行い全員の就職を決定できた。 | |
| 研究 | 0.35 | 昨年度卒業研究で指導した、熱酸化による多孔質シリコン低誘電率材料の作製について、論文としてまとめ、投稿を行う。また、陽極化成による溶液中での酸化法について実証を明らかにし、春の応物に発表を行う。 | | 0.30 | 酸化時間と低誘電率化との関係のデータ収集が十分にいかず論文の投稿はできなかった。試料作製前の孔の割合と作成後の誘電率との関係に、試料膨張の影響を考慮した結果良好な関係が見られたので来年度早期の投稿を目指し論文を作成している。応物については大学行事等の関係で参加できなかった。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 工学部後援会総会等、後援会主催行事に積極的に参加し貢献する | | 0.05 | 今年度工学部後援会の総会については、日程の都合がつかずに参加できなかった。しかし、卒業研究生に就職説明会への参加を積極的に勧めるなどの形で貢献ができた。 | |
| 管理 運営 | 0.20 | 工学部教授会および、所属コースの会議に参加すると共に、工学部およびコースの担当している各委員会に積極的に参加し、業務に支障が生じないようにする。 | | 0.20 | 工学部教授会および学科会議に不在等で都合のつかない時以外は積極的に出席ができた。各種委員会活動についても活動が行えた。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 長名 保範 | 所 属 | 工学部工学科電子情報通信コース | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 昨年にひきつづき、学生実験やレポート作成のための資料の整備を行うとともに、大学院の講義の資料のアップデートも継続する。年次指導教員を担当している3年次学生の進路指導も行う | | 0.30 | 講義資料の整備などは予定通り行うことができた。進路指導も十分に対応できたのではないかと考えている。 | |
| 研究 | 0.30 | 科研費の研究課題が2年目なので、引き続き研究を推進して国際会議・論文誌等への投稿を目指すとともに、新たな研究費獲得へ向けての取り組みも行う。受託研究の獲得に向けても努力している | | 0.30 | 国際会議に1件採択された。新たな共同研究の体制を構築することもできたので、研究費の獲得など次年度以降につなげていきたい。 | |
| 社会貢献 | 0.20 | 学会の各種委員や、国際会議の運営委員としての活動を行う予定 | | 0.20 | 学会や国際会議、論文誌等の各種委員としての活動を行った。来年度は那覇で国際会議を開催することになり、ひきつづき努力したい。 | |
| 管理運営 | 0.20 | 工学部や学科・コースの各種委員会を通じて大学の管理運営業務を行う | | 0.20 | 工学部や学科・コースの各種委員の活動を行った。県内高校への説明会なども担当し、充実した活動ができた。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|-----------------------------------|-----|--|--|
| 名 前 | | 安藤 徹哉 | 所 属 | | 工学部 社会基盤デザインコース |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | ・最新の知見を取り入れた授業を心がけ、学生たちの興味を引きつける。 | | 0.30 | ・授業で用いる事例紹介、統計資料などを最新のものに修正した。 |
| 研究 | 0.30 | ・査読付き論文を複数投稿する。 | | 0.30 | ・建築学会計画系論文集に2編の学術論文が掲載された。また、カリフォルニア大学バークレー校に招かれ、研究発表を行った。 |
| 社会 貢献 | 0.10 | ・学内外の委員会に積極的に参加する。 | | 0.10 | ・引き続き、各種委員会に参加した。 |
| 管理 運営 | 0.30 | ・コース長として、コースの円滑な管理運営を心がける。 | | 0.30 | ・コース長として、コースの円滑な管理運営を行った。 |
| | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 藍檀オメル | 所 属 | | 工学部 社会基盤デザインコース | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> 社会基盤デザインコースが目標としている教育を目標とする。 社会基盤デザインコースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う。 学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指す。 | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> 社会基盤デザインコースが目標としている教育を目標とした。 社会基盤デザインコースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行った。 学生よりの意見などを積極的に考慮し、魅力のある授業を目指した。 | | |
| 研究 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> 査読付き論文の投稿や招待講演、学会・シンポジウムなどでの研究発表を行う。 所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行う。 科研費以外の外部資金の獲得を目指す(寄附金, 委託研究など)。 | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> 査読付き論文の投稿や招待講演、学会・シンポジウムなどでの研究発表を行った。 所属部局以外との共同研究・計測器の開発などを行った。 科研費以外の外部資金の獲得を目指した(寄附金, 委託研究など)。 | | |
| 社会 貢献 | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> 学協会の委員会活動を積極的に行う。 学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行う。 国際学術会議の企画・運営や国際会議での特別講演などを行う。 国内外の学術論文集・ジャーナルなどの編集員を務める。 | | | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> 学協会の委員会活動を積極的に行った。 学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行った。 国際学術会議の企画・運営や国際会議での特別講演などを行った。 国内外の学術論文集・ジャーナルなどの編集員を務めた。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> 各種委員会において積極的に発言し、その職務を務める 島嶼防災研究センターのセンター長を務める 国際交流委員会委員などを務める。 | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> 各種委員会において積極的に発言し、その職務を務めた 島嶼防災研究センターのセンター長を務めた 国際交流委員会委員などを務めた。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 有住 康則 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <p>学部科目:「構造力学I及び演習」、「線形代数学A」、「橋設計論」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用する。各科目について授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討し、授業改善に努める。FD活動に積極的に参加する。大学院の講義を担当し、理工学研究科学生の研究指導を行う。2年次指導教員として、学生の修学指導、及び他学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組む。</p> | | 0.30 | <p>学部科目:「構造力学I及び演習」、「橋設計論」、「線形代数学A」、「土木技術者倫理」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準に基づき講義を行った。また、共通科目「災害と安全」及び「大学で何を学ぶか」を一部担当した。専門科目のアンケート結果は良好であった。なお、演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用した。大学院では、「橋梁工学特論」を担当した。また、学部3年次指導教員として、学生の修学指導を行い、更に、他学生の4年次学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組んだ。</p> | |
| 研究 | 0.25 | <p>科学研究補助金基盤研究(C)「鉛直・水平補剛材に重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐力評価と機能回復技術」を中心に研究開発を進め、その成果は土木学会論文集、鋼構造工学論文集等に投稿する。また、内閣府・JST・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)に「亜熱帯島嶼に適した橋梁維持管理技術の実装と診断ドクターの育成」の研究活動を行う。学会活動では土木学会「鋼構造委員会」に委員として積極的に参加する。</p> | | 0.25 | <p>科学研究補助金基盤研究(C)「鉛直・水平補剛材に重度の腐食損傷を受けた鋼桁腹板のせん断耐力評価と機能回復技術」を中心に研究開発を進めた。また、前年度採択された内閣府・JST・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「亜熱帯島嶼に適した橋梁維持管理技術の実装と診断ドクターの育成」(H28～H30、1800万円/年)について、開発された技術の沖縄における実装及び維持管理技術者の育成活動を行った。国外の学術論文集に1編(共著)採択された。土木学会年次講演会に論文を3編発表(共著)した。土木学会「鋼構造委員会」に委員として参加した。</p> | |
| 社会 貢献 | 0.05 | <p>国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」、沖縄総合事務局「景観委員会」、「総合評価審査委員会」、沖縄県「沖縄鉄軌道技術検討委員会」、那覇市「都市計画審議会」、「那覇市上下水道事業審議会」等に委員(会長を含む)として参加し、専門的立場で意見を述べ社会に貢献する。</p> | | 0.05 | <p>国土交通省「社会資本整備審議会道路分科会沖縄地方小委員」、那覇市「那覇市都市計画審議会」及び那覇市「那覇市入札監視委員会」に委員長(会長)として、また、沖縄総合事務局「総合評価審査委員会」、「沖縄の新たな交通環境創造会議」、「沖縄次世代都市交通システム(Okinawa-ART)検討会」等に委員等として参加し、専門的立場で意見を述べ社会貢献活動を行った。</p> | |
| 管理 運営 | 0.40 | <p>工学部長として、教授会、代議会を主幹し、構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努める。特に、学部の教育組織改革を推進する。全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会に出席し、学部の意見を述べ、関連資料については速やかに構成員に公表する。環境建設工学科土木コースJABEE教育委員会等の委員会活動に努める。</p> | | 0.40 | <p>工学部長として、教授会、代議会、前期委員会を主幹し、構成員の意見を反映し、公正な学部運営に努めた。特に、改組により新設された1学科7コース制教育システムへの移行に構成員と共に取り組み、工学部が申請した「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」が本学で唯一採択され、又教員ポスト戦略的再配分(部局等改革推進枠)1名を昨年度に引き続き獲得した。一方、全学の企画経営戦略会議、教育研究評議会、全学人事委員会に出席し、学部の意見を述べ、会議の内容については速やかに構成員に公表した。</p> | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| <p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p> | | | | <p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p> | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 松原 仁 | 所 属 | 工学部 工学科 社会基盤デザインコース | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 最新の研究成果を積極的に取り入れた講義を実施することで、学問の多様性や奥深さを認識・習得させる。特に、実験系科目については、最新の研究成果を取り入れた教育を実践する。 | | 0.40 | 地盤の風化・生成を中心とした最新の研究事例を取り入れた講義やセミナーを実施した。特に、実験科目である「土質工学実験A」では、土の乾燥亀裂に関する新しい実験を取り入れ、学生が最先端の成果に触れられるよう工夫した。結果として、4名の大学院生が国内の学術会議で発表できた。また、直接指導した学生の進路は、大学院進学(2名)、大手企業(4名)、県内公務員(2名)であった。 | |
| 研究 | 0.40 | 科学研究費補助金および企業からの研究助成金をベースにして、琉球石灰岩や島尻層群泥岩の風化研究を進める。同時に、国内外の研究組織との研究交流を展開する。また、その他の外部資金獲得へ向けて積極的に取り組み、学内研究プロジェクトへも積極的に応募する。 | | 0.40 | 科学研究費補助金ベースの研究、企業との共同研究(2件)、および学内戦略的プロジェクト研究(3年:PI)を、工学部、理学部、農学部、教育学部、熟生研、島嶼防災研の6部局横断研究を通じて進めた。また、学術振興会の二国間交流事業や科学研究費補助金に対しても学外研究機関を交えて、新たに応募することができた。 | |
| 社会貢献 | 0.10 | 県内外の大学・企業との連携を密にし、地域社会の発展と人材送出に資する。 | | 0.10 | 沖縄県内の法面崩壊の危険性のある箇所について共同研究を進めた。同時に、液状化等の地盤防災技術に関して、県外企業との共同研究を進め、共同で特許を取得するに至った。また、人材育成に関しては、大手企業へ4名、県内公務員へ2名輩出することができた。 | |
| 管理運営 | 0.10 | 研究推進委員会委員の一人とし、学際的かつ高度な研究活動の推進に資する。また、施設・環境委員会委員の一人として、学部の教育環境向上に向けた活動を実施する。 | | 0.10 | 工学部研究推進委員会にて、科研費申請・採択率の向上やトップジャーナルへの投稿・採択に資する議論を実施した。施設・環境委員会委員としては、エコロジカル・キャンパスの一環として工学部周辺の清掃活動等を実施し、社会基盤デザインコースとしての活動をまとめた。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 富山 潤 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・コースの目標に照らした教育目標の設定 ・コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う。 ・学生からの意見を積極的に聴衆する。 ・教育補助者の有効活用, その資質の向上, FDへの参加 ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受ける ・オフィスアワーによる学生支援, 卒論生, 修士学生の指導を十分行う。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・コースの目標に照らした教育目標に応じた講義や授業改善マニュアルに従った改善を行った。 ・授業評価アンケート等で学生からの意見を積極的に聴取した。 ・TAの利用, FDへの積極的な参加を行った。 ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受け, 講義を実施した。 ・卒業生, 修士学生および3年次研究室仮配属の学生の指導を十分行った。 | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文の投稿, 学会での研究発表を行う。 ・科研: 基盤研究(C)へ取組む。 ・所属部局以外や学外組織との共同研究を行う。 ・科研費以外の外部資金の獲得を目指す(寄附金, 国土交通省研究助成など)。 ※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・本コースが定めるAA論文1編, A論文7編(英文2編)が採用された。 ・科研: 基盤研究(B)分担2件に取り組んだ。また, 基盤研究(C)に申請した。 ・学外組織と共同研究(琉球セメント, 沖縄県建設技術センター, R&A等)を行った。 ・その他, 外部資金として, 受託研究1件, 寄附金3件を受けた。 ・SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)の地域実装チームとして積極的に活動した。 ・琉大と港湾空港技術研究所との研究協定の橋渡しおよび, 活動を行っている。 | |
| 社会 貢献 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・学協会の委員会活動を積極的に行う。 ・学協会以外の学外の審議会, 委員会等活動を積極的に行う。 | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・土木学会(4委員会), コンクリート工学会(3委員会)で活動した。 ・沖縄県(3委員会), 沖縄総合事務局(2委員会), うるま市(2委員会) ・民間として, 生コン協会, アスファルト関係の委員会など ・講演会講師として, 9件の話題提供を行った。 ・7市町村の橋梁長寿命化策定に学識経験者として参加 | |
| 管理 運営 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・工学部社会連携委員・大学院改組WGを務める。 ・土木コース教育プログラム実施WGを務める。 | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・工学部社会連携委員・大学院改組WGを務めた。 ・土木コース教育プログラム実施WGを務めた。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 下里 哲弘 | 所 属 | 工学部 工学科 社会基盤デザインコース | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目、専門選択必修科目、共通教育科目を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行う。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書を活用した授業を行う。 ・大学院進学、民間就職、公務員希望学生の支援と指導を行う。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門必修科目・選択必修科目、共通教育科目を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行った。 ・授業評価アンケート、授業改善報告書を活用した授業を行った。 ・大学院2人、民間就職5人、公務員1人の進学決定を指導した。 ・博士後期学生4人の指導とPeace留学生1名を指導した。 | |
| 研究 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・大型の競争的外部資金を獲得し、社会貢献技術の研究を行う。 ・土木学会、日本鋼構造協会等への査読論文投稿を行う。 ・県内外等で研究成果の発表を行う。 ・地域に貢献する研究活動(調査、講演等)を積極的に行う。 | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府戦略的イノベーション創造プログラムの大型外部資金を獲得した。 ・共同研究4件を獲得した。 ・ASCE1編、土木学会論文1編、その他査読1編の投稿を行った。 ・地域に貢献する研究活動(調査、講演等)を積極的に行った。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献として土木学会等の活動へ積極的に参画する。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ積極的に参画する。 | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・土木学会、鋼構造協会、腐食防食協会等の活動へ積極的に参画した。 ・地域社会貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ参画した。 ・民間からの技術相談を多数行った。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・工学部入試委員、将来計画委員の活動を行う。 ・工学部教授会、学科会議、博士後期および前期委員会等の諸運営活動を行う。 | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・工学部入試WG委員、大学院改組WGの活動を行った。 ・大学院改革、総合情報処理センター改組の全学委員の活動を行った。 ・工学部教授会、コース会議、博士後期・前期委員会等の活動を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 入部 綱清 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---------------------------------|-----|--|----------------------------------|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行う。 | | 0.30 | JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行った。 | |
| 研究 | 0.40 | 環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行う。 | | 0.40 | 環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行った。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 環境・防災研究を通じて社会貢献に努める。 | | 0.10 | 環境・防災研究を通じて社会貢献を行った。 | |
| 管理 運営 | 0.10 | 広報図書委員会の委員として、委員会の運営に努める。 | | 0.10 | 広報図書委員会の委員として、委員会の運営を行った。 | |
| | 0.10 | 学生の進路相談や就職のサポートを行う。 | | 0.10 | 学生の進路相談や就職のサポートを行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|
| 名 前 | 小倉 暢之 | | 所 属 | 工学部 工学科 建築学コース | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図る。演習では積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行う。研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行う。また、国際交流協定締結校との教育交流を推進し、交換留学生及びダブルディグリープログラム学生の派遣を行う。 | | 0.30 | 学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図った。演習では留学生も採用して英語によるコミュニケーションの機会を提供する等、積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行った。研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行いほぼ全員希望進路に進む事ができた。また、国際交流協定締結校との教育交流を推進し、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校と短期交換留学生の派遣と受け入れ、及びダブルディグリープログラム大学院生の派遣を行った。 |
| 研究 | 0.35 | 科研費(海外B)「東南アジア都市低所得者層のための住民目線に立つ身の丈住宅供給」及び、科研費(C)「復帰前沖縄近代建築における地域完結的展開の特質」の研究代表者として研究組織の統括と研究に取り組み、共同研究者並びに大学院生等と共に研究した成果を国内外の論文に投稿する。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進する。 | | 0.30 | 科研費(海外B)「東南アジア都市低所得者層のための住民目線に立つ身の丈住宅供給」及び、科研費(C)「復帰前沖縄近代建築における地域完結的展開の特質」の研究代表者として研究組織の統括と研究に取り組み、共同研究者並びに大学院生等と共に研究した成果を国内外の論文に投稿し、その一部は日本建築学会計画系論文集に掲載された。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進し、国際共同論文の発表も行った。さらに、研究室修了の元留学生をJASSO研究員として受け入れた。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 日本建築学会沖縄支所長、沖縄建築士会理事、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会に貢献する。 | | 0.15 | 日本建築学会沖縄支所長として支所を運営すると共に地元建築家の功績を紹介するシンポジウムを開催した。また、沖縄建築士会理事、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会に貢献した。 |
| 管理運営 | 0.20 | 国際交流担当副学部長として工学部の国際交流を推進する。具体的には、キングモンクット工科大学ラカバン校建築学部とのダブルディグリープログラム協定を締結する他、工学部のグローバルエンジニアリングプログラムの実施に伴う国際インターンシップ受入先の開拓を行う。 | | 0.25 | 国際交流担当副学部長として工学部の国際交流を推進した。具体的には、キングモンクット工科大学ラカバン校建築学部とのダブルディグリープログラム協定を締結すると共に、インドのマダンモハンモラビア工科大学、及びカンボジアのプノンペン工科大学との学部間協定に尽力し、工学部のグローバルエンジニアリングプログラムの実施に伴う国際インターンシップ受入先の開拓を行った。さらに、国費特別枠留学生プログラムの申請において、工学部から「スマートシティ人材育成プログラム」の申請に関係者と協力し、毎年6人の枠を確保する事ができた。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|
| 名 前 | | 清水 肇 | 所 属 | | 工学部 工学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.35 | <p>専門教育、共通教育の授業を、学生との意見交換方法などを改善し効果的に実施する。 4年次指導教員として、学生の進路相談、卒業へ向けた研究活動等についての丁寧な支援を行う。</p> | | 0.35 | <p>専門教育においては、新学科における新科目等(工学概論、建築構法)の内容に新規の工夫を加えたことを含めて、教育内容の改善を行った。 建築学コースの授業評価アンケートの実施方法の改善に貢献した。 4年次指導教員として、学生の進路に関わる業務などに多く携わった。 研究指導院生・学部学生に対しては社会参画の場を積極的に設置し、指導内容を改善した。</p> |
| 研究 | 0.30 | <p>生活空間連研究を進め、学会および学会誌にて発表を行う。 科学研究費(基盤(C))の3年間の研究期間の最終年度を延長し、さらに追加の成果をあげて、一連の成果をとりまとめる。 密集市街地の改善、歴史的環境の継承、木造建築技術の実態に関する研究を実施する。</p> | | 0.30 | <p>生活空間関連研究について、日本建築学会、学童保育学会で発表を行った。「グローバルヘリテージに関する国際会議」(韓国、釜山)での報告を行った。 科学研究費(基盤(C))の延長最終年度の研究を実施した。他に沖縄地域振興協会の助成金を得た研究を実施した。 密集市街地の改善、歴史的環境の継承等について現地実践型研究を実施した。</p> |
| 社会 貢献 | 0.15 | <p>沖縄県、那覇市、浦添市、糸満市、八重瀬町、読谷村他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献する。 学童保育施設整備に関わる施策への関与により沖縄県内の学童保育の改善に貢献する。 公開セミナー等を積極的に実施する。</p> | | 0.15 | <p>沖縄県、那覇市、浦添市、糸満市、八重瀬町、読谷村、西原町、粟国村、奄美市他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献した。 学童保育施設整備について、学童保育連絡協議会、うるま市、中城村などの取り組みに貢献した。 年間を通じて各種のセミナー、公開研究会を実施した。</p> |
| 管理 運営 | 0.20 | <p>工学部将来計画委員、入試委員として工学部の改組後の教育運営等についての業務に貢献する。 全学の障がい学生支援室委員、ジェンダー協働推進室委員他の委員会を通じて、大学の管理運営に貢献する。</p> | | 0.20 | <p>とくに工学部入試委員、大学院改組WG委員として工学部の教育運営に貢献した。 全学の障がい学生支援室委員として、学習環境整備などに貢献した。</p> |
| | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 堤 純一郎 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.25 | 学部課程の授業はできる限りカリキュラム通りに実施するように努める。大学院博士前期課程の授業は、すべて英語で実施する。指導する大学院生に対してはできる範囲で学会発表の機会を作る。大学院博士後期課程の大学院生に対しては、審査論文が採用されるように指導する。 | | 0.25 | 学士課程及び大学院ともに、ほぼシラバス通りに授業を完了した。大学院の博士前期課程の授業は、受講者が特別プログラムの留学生だけだったこともあり、講義は全て英語で実施した。また、学士課程の授業でも留学生の研究生が出席していた授業は日英両言語を使用した。 | |
| 研究 | 0.25 | 大学院博士後期課程の大学院生の研究テーマを適切に設定して、その指導を中心に、社会的な要請に応える研究を遂行させるとともに、各大学院生に1編以上の審査付き論文を書かせるように指導する。 | | 0.25 | 大学院博士後期課程の学生に対する研究指導は、個別にテーマを設定して順調に進んでいる。まだ草稿の段階も含めると、各大学院生による論文の執筆もそれに合わせて進んでいる。また、競争的公的資金による研究テーマも採択され、新たなエネルギー研究の緒についた。 | |
| 社会 貢献 | 0.25 | 国、県や市町村における各種審議会等の委員やアドバイザー等の業務を教育研究に支障のない範囲で、できる限り引き受ける。産学官連携を積極的に支援し、機会があれば遂行するように努力する。 | | 0.28 | 今年度は特に、沖縄県とハワイ州によるクリーンエネルギー協力事業に参画する機会を多数得て、9月にホノルルで開催されたWUB記念事業を筆頭に多くの講演やシンポジウム等を行った。それ以外にも、廃棄物処理、公共交通、公共施設計画等の事業に関わる機会を多数持つことができた。 | |
| 管理 運営 | 0.25 | 大学院博士後期課程総合知能工学専攻主任として、滞りない専攻の運営に注力する。これに伴い大学院教育プログラム委員の活動を全うする。エコロジカルキャンパス推進委員会の企画部会主査として、全学の環境活動全般に配慮して運営するとともに、後継者を育成する。 | | 0.22 | 今年度の博士後期課程総合知能工学主任として、今まで不明確であった専攻の構成等を全て刷新することができた。全学のエコロジカルキャンパス推進委員会企画部会主査として、全学の環境管理及び環境活動を企画、運営、管理、評価及び新規事業を主導的に行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 山田 義智 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 学部で「建築材料」、「環境材料学」、「工業数学I」、の必修科目や、「数理情報処理」、「構造力学III」の選択科目を学生の理解が進むよう講義する。大学院では「建設材料学特論」で材料学の重要性を理解させる。卒論・修論では、建築材料学の研究の楽しさと建築において果たす役割を教える。修論生には学会発表や査読論文投稿を行うよう指導する。 研究室配属の学部学生(6名) および大学院生(6名:休学1含む)の進路について、十分に把握・指導して有意義な学生生活を送れるよう助力する。 | | 0.30 | 学部講義アンケート結果は全て良好であった。大学院講義は、アル骨問題のある橋梁の見学も実施した。卒論・修論の学生にも現時点で目標通りの教育ができています。大学院生5名全員に国内学会での発表指導ができた。その内2名は国際シンポジウムでの発表も指導した。また、指導する大学院生2名が筆頭で査読付き論文を投稿し掲載された。さらに、その内の一人は、日本建築学会九州支部研究新人賞と日本コンクリート工学会年次論文奨励賞を受賞した。 受入れ教員として、大学院後期課程に学外から社会人ドクターの受験者(第2期)を得た。 | |
| 研究 | 0.30 | フレッシュコンクリートのレオロジーに関する研究では、科研費基盤(B)の内定を得ており、研究を積極的に進める。また、フライアッシュを用いた補修塗材の開発研究を企業と共同で行うことを目標とする。さらに、コンクリート工学会で進めている自然環境下のコンクリートの劣化研究委員会においては、幹事長として塩害研究の統括をおこなう。また、飛来塩分の輸送量推定手法を用いた塩害ハザードマップ作成に関する研究を進める。これらの研究成果として査読付論文を投稿するほか、さらなる外部資金の獲得を目指す。 | | 0.30 | フレッシュコンクリートのレオロジーに関しては査読付き論文3編が掲載された。飛来塩分の研究に関しては査読付論文が1編が掲載された。他にも専門誌に学術記事の依頼を2件受け、一件は印刷待ちであり、もう一件は執筆中である。 外部資金は科研(基盤B)を獲得しているほか、数件の企業より寄付金および共同研究費を得て、研究を進めている。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 日本建築学会材料施工本委員会(建築学会では他委員2件あり)や土木学会・コンクリート工学会の委員会活動や、擁壁製造委員、その他の県内の各委員としてその責務をはたす。また、日本建築学会九州支部の材料施工委員会委員長としての責務もはたす。 | | 0.10 | 日本建築学会や日本コンクリート工学会における各種委員会での責務を果たした。日本建築学会九州支部の材料施工委員会委員長や沖縄県生コンクリート品質監査会議の副議長としての責務も果たした。その他にも、全国宅地擁壁技術協会調査委員や県内の各種委員会に参加して活動を行いその責務を果たした。 | |
| 管理 運営 | 0.30 | 建築学コース長と環境建設工学専攻主任の他、全学委員会および研究推進委員(工学部)の各種委員を務める。教授会・専攻主任会議や学科会議・コース会議には、積極的に出席して組織運営の一助とする。 | | 0.30 | 建築学コース長と環境建設工学専攻主任の他、全学委員会を務めた。建築学コース会議や環境建設工学専攻会議を行い、コースや専攻運営に努めた。さらに、教授会・専攻主任会議・代議会、後期委員会等には出張時以外を除き積極的に出席して組織運営に努めた。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | CASTRO JUAN JOSE | 所 属 | | 工学部 工学科 建築学コース | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部科目:「建築構造力学I」、「構造設計Ⅱ」、「建築基礎構造」及び「建築防災工学」等を担当し、一級建築士の水準を満足するような講義を行う。昨年度の学習調査結果の分析を行い、講義内容を改善し、学生がよりよく理解できるようにする。 ・大学院科目:「防災設計特論」を担当し、留学生を含む大学院生を対象とした講義を行い、大学の国際化に務める。 ・特に1年生の講義では時間外に特別講義を設け、理解度を高めるように努める。 ・大学院生には学会発表や査読付き論文の投稿に指導する。 | | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部生の講義についてのアンケートによりその評価が良好であった。講義内容の改善に務めた。さらに補習講義として、特別講義を行い理解を深めさせるように務めた。 ・日本建築構造技術者協会(JSCA)と共同主催で、一線で活躍されている建築家を招き、ワークショップを開催し(参加者約90名)、キャリア形成に役立ったと好評であった。 ・国内学会では、大学院生3名(内留学生1名)及び学部生3名の論文投稿及び発表の指導を行った。「平成29年度沖縄ブロック国土交通研究会」において、指導した大学院生一名の論文発表が優秀賞を受賞した。 | | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県農林水産部森林管理課と連携し、「沖縄県における森林資源の建物構造部材への活用」の関連研究を継続する。 ・学外では建築学会「鉄筋コンクリート厚肉壁式構造設計指針(案)」に委員として参加する。 ・これまでの研究成果を建築学会等で発表を行い、外部資金獲得を目指す。 | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内学会及び専門研究会において、木造(9編)、台風(1編)、鉄筋腐食(1編)の合計11編の口頭発表を行った。現時点で2編の審査付き論文を投稿中である。 ・研究資金として、高橋産業経済研究財団と科研費(分担)を獲得した。 ・研究交流として豊橋技術大学と留学生を含めた英語による合同セミナーを立ち上げた。 | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・JICA研修員(建築研究所)を対象とした「構造解析」の講義を担当し、発展途上国への技術協力の一環とした研修コースを通して国際貢献をする。 ・日本建築学会沖縄支所評議員として社会貢献をする。 ・沖縄県建築設計サポートセンター耐震診断判定委員会の耐震判定委員として責務を果たす。 ・沖縄県耐震化促進支援会議、会長として責務を果たす。 | | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・JICAの研修コースの研修員(建築研究所)を対象とした「構造解析」の講義を担当し、発展途上国への技術協力を目的とした国際貢献をする。 ・日本建築学会沖縄支所評議員として会議に参加する。 ・沖縄県建築設計サポートセンター耐震診断判定委員会の委員長及び沖縄県建築士会の耐震診断判定委員会の委員として責務を果たす。 ・沖縄県耐震化促進支援会議の会長を務め、簡易診断の状況を取りまとめ来年度の耐震化促進への貢献をした。 | | |
| 管理 運営 | 0.15 | <p>全学(大学院教育プログラム委員会、沖縄国際研究所運営委員会)および工学部(代議員会、国際交流委員会)の各種委員を務める。また、教授会・コース会議には、積極的に出席し、その円滑な運営に努める。</p> | | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・左記全学及び工学部の各種委員を積極的に務めた。教授会やコース会議にも積極的に参加した。 ・全学的な国際交流促進の一環として、海外の協定校の開拓及び具体的な交渉を主導した。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 渡嘉敷 健 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.25 | 建築学コースの授業、建築設備計画において、昨年度も実施して来た建築設備等の施設見学を行い授業の内容を具体化して学生の理解力を高めたい。建築環境工学演習においても既設のホールの残響時間の測定実験を行いこれまでに得られた研究成果を生かした具体的な実験実習を行っていきたい。大学院の環境騒音特論では研究の環境騒音の調査を授業に取り入れたい。 | | 0.25 | 学部の授業、建築設備計画において施設見学を行った。法文学部人文社会総合研究棟の建築設備全般について施設部の担当者から説明を聞いて学生の質疑にも対応して頂いた。沖縄電力牧港火力発電所の施設見学では発電の系統の説明をして頂いた。北谷浄水場と海水淡水化センターの見学を行った。さらに、国立劇場おきなわの見学を行いホールの機能を学んだ。大学院の環境騒音特論では大学構内の環境騒音の調査を授業に取り入れた。 | |
| 研究 | 0.30 | 音響材料開発及び遮音構法として産学連携としての技術提供を行い社会貢献を行いたい、さらに外部資金の獲得につなげられるように努力したい。現在行っている航空機騒音の主観評価調査を進めさらにデータ収集を行い研究を発展させて行きたい。国際会議、インターノイズに論文を提出し、発表を行いたい。学会活動として日本音響学科九州支部評議員2年間の経験を生かして学会活動に貢献したい。 | | 0.30 | 音響材料開発及び遮音構法として産学連携として金属折半屋根の遮音性能さらに建築工事での騒音対策の遮音シートの遮音性能測定を行い報告書を提出した。国際会議インターノイズにおいて、沖縄県内の米軍航空機の低周波音調査データの研究発表を行った。 | |
| 社会貢献 | 0.25 | 研究調査で行っている学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて実施される音響調査に専門家としての技術支援を行いたい。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行いたい。行政の委員会に貢献した。沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行う。 | | 0.25 | 学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて沖縄市教育委員会からの音響調査に専門家としての技術支援を行った。東村高江のヘリ着陸帯の住民裁判の陳述意見書を提出した。県内既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行った。おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行った。集合住宅の音環境設計セミナーも11年目のセミナーを建築士VPD認定セミナーとして開催した。4月の科学技術週間で小中高生に対して残響室無響室の見学と音の実験を行った。 | |
| 管理運営 | 0.15 | 工学部と沖縄工業高専との研究を推進する活動に貢献するため昨年度同様に研究室で研究交流を実施し研究交流に貢献したい。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に協力して行きたい。 | | 0.15 | 工学部と沖縄工業高専との学生研究交流に私の研究室の学生7名も研究交流を行った。大学のオープンキャンパスにおいて残響室無響室内で実験を体験してもらった。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に建築のコース会議で議論は行われていないが、今後検討を具体化していく中で協力して行きたい。 | |
| 進路指導 | 0.05 | これまでの就職担当教員の経験を活かし、また授業等では施設見学を通して得られる経験を学生の就職支援に役立てて行けるように取り組みたい。学科同窓会の協力を得て就職説明会を開催できるように努力したい。例年実施している高校訪問の業務を今年度は建築学コースの学習プログラムの説明を行いたい。 | | 0.05 | 学部学生及び大学院生の就職活動のことも考え、講義の中で、専門性を生かした就職状況等のビデオ等の説明を行い就職への啓発を行った。学生からの評判も良く、学生達の就職活動に生かしてもらいたいと考えている。学科同窓会の起業者の体験セミナーのDVDを就職説明に活用した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 入江 徹 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 建築計画系科目、建築設計製図科目、ゼミなどにおいて、学生に国内外の建築デザインに関するリアルな情報提供を行う。 | | 0.30 | 建築デザイン・設計系科目、ゼミなどにおいて、学生に国内外の建築に関する最新情報の提供を行った。また、学内の合同設計発表会や協定校との国際ワークショップを開催した。 | |
| 研究 | 0.30 | 建築における最先端デザインの探求を実験的に行う。 | | 0.30 | 各地の現代建築の視察等を行うなど、建築における最先端デザインの探求に務めた。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 学外委員会などを通して社会に貢献する。 | | 0.15 | 日本建築学会九州支部沖縄支所常任幹事として、支所運営やシンポジウム開催に貢献した。また、学外委員会委員として貢献した。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | 施設・環境委員、URGCC委員として業務に従事する。 | | 0.15 | 施設・環境委員、URGCC委員として業務に従事した。 | |
| 進路 指導 | 0.10 | 将来的活動に対して学生に必要な情報を提供し、指導を行う。 | | 0.10 | 学生の卒業後の進路や将来的活動などに対する情報提供を行い、準備しておくことなどについて指導を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 小野尋子 | 所 属 | | 環境建設工学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成26年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成26年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.35 | アフガニスタンからの留学生2人の指導では、日本の都市計画制度との違いをしっかりと認識してもらえるように指導する。また今年は4年生6人、修士論文3人と論文学生が多いので、きめ細かい指導で進め、学会発表などができるレベルまで指導する。 | | | 0.30 | 2名の留学生二人ともが、学会発表ができた。また、研究室の卒業論文が全国及び九州支部で、学会から最優秀賞を受賞した(昨年度3月末であるため、昨年度評価書には未記載)。学長からもお褒めの言葉を頂いた。 | | |
| 研究 | 0.35 | 新規科研採択研究の継続。また学内の競争的研究資金も獲得したので、その遂行を行う。黄表紙をはじめとする査読付き学会論文に投稿する。 | | | 0.30 | 黄表紙を4本執筆し、1本が採用、2本は不採用、1本は再査読結果待ちである。研究については特に基地跡地利用を中心に精力的に進めてきた。 | | |
| 社会貢献 | 0.10 | MICEや基地跡地利用など、県内の実際の取り組みと連動するかたちで研究・教育をすすめ、成果を還元する。また各種学識委員会、審議会の務めを果たす。 | | | 0.15 | 基地跡地利用や環境アセスメントなどの委員会に関わり、主に環境と開発を調整する立場から、多くの助言を与えた。また、今年度は、建設新聞にて連続論壇(計6回)を担当し、琉球大学の研究成果を県内の建設業界にひろく広報した。また大学本部からの依頼で、ホームカミングデーにて研究の取り組みをOB達の前で報告した。 | | |
| 管理運営 | 0.10 | 教育委員会、4年次担当などの学内委員の職務を行う。 | | | 0.15 | 教育委員会は業務負担が大きく、転コースや、カリキュラム申請などの業務を行った。 | | |
| 進路指導 | 0.10 | 4年次指導教員として、就職・進学支援を行う。 | | | 0.10 | 4年生向けの就職サイトを作り、大学に来る就職案内をサイト上で公開し、県外等で就職活動中の学生などが大学に来なくても閲覧できるように等、支援に力を入れた。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 中田 幸造 | 所 属 | | 工学部工学科建築学コース | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | できるだけわかりやすく興味を持てるように講義する。講義時間外も随時質問を受け付け、学生の理解が進むように努力する。 勉強意欲や進学意欲が高まるように研究室4年次の質問に分かりやすく答える努力をする。 | | 0.30 | 理解しやすい講義に努めた。研究室4年次の質問には随時対応した。以上より、目標を達成できたと考える。 | | | |
| 研究 | 0.30 | 査読付き論文を投稿する。外部資金の獲得に努める。 | | 0.40 | 日本建築学会構造系論文集(第82巻, 第737号)に論文が掲載された。コンクリート工学年次大会2017(仙台)で研究発表を行い、高い評価を頂いた(コンクリート工学, Vol. 55, No. 10, 2017.10)。日本建築学会大会(8月)、スイスで開催された国際会議(9月, SMAR2017)で研究発表を行った。2018年3月4日の日本建築学会九州支部研究報告集に投稿を行った。コンクリート年次大会2018(神戸)に投稿した。科研費(基盤研究C)が継続採択されている。外部資金3件に応募した(旭硝子財団研究助成, 国土技術研究センター研究開発助成, 沖縄しまて協会技術開発支援事業)。よって、目標は達成できた。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 沖縄建築士事務所協会耐震診断判定委員会の耐震判定委員, 総合事務局総合評価委員として責務を果たす。また, 総合資格学院の1級建築士講座学科IV講師として, 学外においてもわかりやすい講義に努める。 | | 0.20 | 耐震判定委員, 総合事務局総合評価委員, 沖縄防衛局総合評価アドバイザー, 1級建築士講座非常勤講師としての責務を果たした。また, 沖縄県警などへ専門分野からの協力も行った。以上より, 目標は達成できた。 | | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 研究推進委員会委員, ニュース編集WG委員としての務めを果たす。 | | 0.10 | 研究推進委員会委員, 島嶼防災研究センター運営委員, 施設運営部総合評価委員会委員としての責務を果たした。以上より, 目標は達成できた。 | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 仲松 亮 | 所 属 | 工学部 建築学コース | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 1年次の基礎科目では、昨年度に復習やレポート課題など講義外学習のチェック体制の見直しを行ったが、実際の運営の中で様々な問題点が明らかになった。昨年度の結果を踏まえ、方向性は維持しつつ、進め方を改善する。数学関連の講義では、講義のレベルに到達していない学生に対して、講義外講座や追加課題の出題等を検討する。本年度3年次の指導教員として学生がカリキュラムに沿った学習を行えるように指導・サポートする。 | | 0.35 | 1年次の基礎科目の講義やレポート課題について、学生が技術的な部分に集中できる形式に変更した。その結果、課題の達成率とその質に明らかな向上が見られた。数学関連の講義については、講義レベルに達していない学生へのサポートを検討したが、学生へ参加を促すことがうまくいかず、来年の課題となった。3年次の指導教員として学生がカリキュラムに沿った学習を行えるように指導・サポートした。 | |
| 研究 | 0.35 | 昨年度は、いろいろな機器の経年劣化や故障が多発し、いくつかの研究の進行が遅れた。修理および機器の新調など体制を整え、研究・実験を進める。既存の研究の研究データを成果としてまとめる。専門知識、また関連する知識の向上に努める。 | | 0.50 | 産官学連携の研究プロジェクトに参加し、研究に尽力した。この研究プロジェクトのため、当初の年度目標は大幅に変更することになった。昨年度から継続する研究については、専門知識や関連する知識の向上に努めたが、実施内容は、機器の調整や新調など体制を整えるに止まった。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 建築士受験に向けた対策講座の講師を務める。環境工学関連のシンポジウムの計画・実施に協力する。 | | 0.05 | 建築士受験に向けた対策講座の講師を務めた。 | |
| 管理 運営 | 0.25 | 工学部の各種委員会委員として運営に協力する。建築学コースのWebページの作成、改善を行う。 | | 0.10 | 高専連携委員として平成29年度琉大工学部・沖縄高専学生研究発表交流会の開催・運営に協力。建築学コースのWebページは、ほぼ作成済みだが、細部の調整を行い今年度中に公開予定。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 金城 春野 | 所 属 | | 工学部 工学科 建築学コース | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 設計製図の授業では、設計技術と創造性を養えるよう、学生と一緒に考えて考える。また、2年次指導教員として、学生をサポートする。 | | | 0.50 | 新コース1年次の必修科目として「建築デザイン基礎」を開講した。試行錯誤ではあるが、作図方法等について丁寧に教えることができ、学生も積極的に参加して基礎的な技術を習得してくれた。設計製図の授業や年次指導についても、引き続き親切に対応した。 | | |
| 研究 | 0.40 | 戦後沖縄近代建築について継続して研究を行い、成果を日本建築学会で発表する。 | | | 0.30 | 研究成果の学会誌への掲載が決定した。また、新たに論文を執筆中で、今年度中に投稿することを目標にしている。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 日本建築学会主催の全国卒業設計展を開催する。 | | | 0.10 | 全国卒業設計展を3日間開催し、学内外の建築系学生、建築関係者が来場した。また、シンポジウム「建築家国場幸房氏の功績と次世代への継承」を開催し、広く一般から170名の参加があった。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 委員会の任務を行う。 | | | 0.10 | オープンキャンパス実行委員、広報図書委員、工学部選挙管理委員、レク委員の委員会活動を行った。 | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 崎原 康平 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 建築学コース1年次の指導教員として、次年度以降のモデルケースとなるよう、学生に対し適切な指導を行う。前期の建築構造力学Ⅰ(演習担当)および建築構造力学Ⅲ(演習担当)では、学生の理解が深まるよう講義内容の充実に努める。また、後期の建築材料構造実験では、安全かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに、理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させる。 | | 0.30 | 前期の建築構造力学Ⅰ(演習担当)および建築構造力学Ⅲ(演習担当)について、レポートを充実させ、学生の基礎学力や理解度を深めるよう努めた。また、後期の建築材料構造実験では、安全・安心かつ円滑に講義が進められるよう細心の注意を払いながら進めるとともに、理論的・実務的な内容の補足説明等も充実させた。研究室所属学生については、就職・進学に関する情報等を収集し、学生へ周知徹底および適切な指導を行った。 | |
| 研究 | 0.40 | 今年採択された科研費助成の最終年度であるため、採択研究の総括を行うとともに、得られた研究成果は国内外の学会で積極的に論文投稿および発表を行う。また、新規の科研費助成および共同研究費獲得に向けた萌芽的研究にも着手する。 | | 0.40 | 本年度の研究で得られた研究成果を、第17回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム(京都)や第13回韓国日本建築材料施工 Joint Symposium(韓国)で発表を行った。また新規の研究として、亜鉛めっき鉄筋腐食に関する研究、建築内装材の感性評価に関する研究なども着手した。 | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の研究メンバーとして産学官が連携した技術講習会を開催・運営する。また、日本建築学会材料・施工委員会として、日本建築学会九州支部報告(鹿児島)の運営が円滑に進められるよう努める。 | | 0.20 | 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の研究メンバーとして産学官が連携した技術講習会を開催・運営した。地域貢献としては、11月に開催された第2回おきなわ建設フェスタでは、建築折り紙等を展出し、将来を担う子どもたちへ建築業界へのイメージアップに尽力した。 | |
| 管理 運営 | 0.10 | 社会連携委員会および環境・施設マネジメント委員会として、大学における安全かつ円滑な運営に寄与するとともに、その他学部・学科内の管理業務等を積極的に行う。 | | 0.10 | 社会連携委員会として、工学部講演会主催のキャリア形成支援セミナーを開催した。セミナーには多く学生および企業が参加し盛況の中無事終えることができた。また参加学生および出展企業へアンケートを実施し、今回のセミナーに関する評価や次回セミナーに向けての改善点の検討を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 玉城 史朗 | 所 属 | | 工学部 工学科 知能情報コース | 職 名 | | 教授 | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|--|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 知能情報コース工学科基礎教育科目である「離散数学」の講義について、学生に、より理解を深めさせるため、講義・演習を含めた教科書を執筆する。そして、学生からのフィードバックを反映させて、充実した講義になるよう努力を行う。その他、学生の目的意識を高めるための講義を行う。また、今年度就職担当であるため、学生の主体性を重視した就職支援活動を行う。 | | | 0.30 | 知能情報コース工学科基礎教育科目である「離散数学」の講義について、学生により理解を深めさせるため、講義・演習を含めた教科書を執筆している。そして、学生からのフィードバックを反映させて、充実した講義になるよう努力した。その他、学生の目的意識を高めるための講義を行った。また、今年度就職担当であるため、学生の主体性を重視した就職支援活動を行った。就職率はほぼ100%である。 | | | |
| 研究 | 0.35 | 現在、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業プロジェクト「CO2施用と冬季補光によるマンゴー増収量システムの開発」を受託しており、IoTを中心とした、高度精密農業の推進に農学部「教員(3名)」と共に取り組んでおり、その途中成果として、学会誌3辺、国際会議3編を予定している。1)Weather News社とのゲリラ降雨予測、2)沖縄高専との自律農業用走行ロボットの開発を行う。 | | | 0.35 | 沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業プロジェクト「CO2施用と冬季補光によるマンゴー増収量システムの開発」を受託しており、IoTを中心とした、高度精密農業の推進に農学部「教員(3名)」と共に取り組んでおり、その途中成果として、アグロイノベーション(農水省主催)、沖縄県異業種交流会、台湾・沖縄技術交流会(国立台湾交通大学主催)で発表を行った。今年度の学術論文は4編、国際会議は3編である。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 産官学共同研究として、「冷熱を用いたクーリングファームによる高付加価値果実の生産システム構築」を手掛けており、これまでの研究成果を社会に還元していく予定である。また、公益法人沖縄情報産業連合会理事として県のIT産業育成に取り組む。 | | | 0.15 | 産官学共同研究として、「冷熱を用いたクーリングファームによる高付加価値果実の生産システム構築」を手掛けており、これまでの研究成果を社会に還元している。また、公益法人沖縄情報産業連合会理事として県のIT産業育成に取り組む。特にIoTとその産業分野の応用では、様々な事例を発表した。 | | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 本学の輸出管理マネージャーとして、全学の知的財産が、不当に第三国に輸出されないような仕組み作り、管理を行う予定である。さらには研究不正防止やコンプライアンスの強化の学内委員に就任予定である。また、全学的な学術評価委員会として活動を行う。 | | | 0.15 | 本学の輸出管理マネージャーとして、全学の知的財産が、不当に第三国に輸出されないような仕組み作り、管理を行った。さらには研究不正防止やコンプライアンスの強化の学内委員としての啓蒙活動を行った。また、全学的な学術評価委員会として活動を行った。 | | | |
| その他 | 0.05 | 学生が主体であるキャンパスの清掃、緑化をもく定期としたエコキャンパス委員会の世話人を務め、特に、在来種芝の植栽を学生たちと共に行っていく予定である。 | | | 0.05 | 学生が主体であるキャンパスの清掃、緑化をもく定期としたエコキャンパス委員会の世話人を務め、特に、在来種芝の植栽を学生たちと共に行った。特に在来種を保護するための集中講義のサポートを実施した。 | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 和田 知久 | 所 属 | 工学部 工学科 知能情報コース | 職 名 | 教授 | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|--|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.25 | 1)担当科目で、JABEE基準並みで実施をする。 2)設計関連講義で、実習を取り入れた実践的内容を実施する。 3)技術者の倫理の講義を充実したものにする。 | | 0.25 | 1)担当科目をJABEE並み基準で実施完了した。 2)デジタルシステム設計、VLSI設計でFPGAボードを用いた実習を実施した。 3)技術者の倫理で、独自教科書を作成し、名護青少年の家で1泊2日の宿泊講義も実施した。 | | |
| 研究 | 0.25 | ※外部資金獲得関連2件 1)SCOPE_PHASE2で外部資金を得て、研究を成果を出す。 2)企業との共同研究、受託研究で、研究成果を出す。 3)大学院学生の国際学会発表を実現する。 | | 0.25 | 1)総務省SCOPE_PHASE2年目で、小型専用ボード開発・実験などを予定通り完了した。 2)オキシテック社との共同研究で、製品に近い性能向上した水中通信装置を開発し、5月に国際学会発表予定。マグナデザインネット社からの受託研究で、長遅延波を抑圧する方式を検討し、アルゴリズムの詳細を明らかにした。 3)国際学会に投稿し採択され、5月に大学院学生により発表予定。 | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 1)研究の実応用として、企業との開発研究に取り組む 2)高大連携出前講義等に積極的にかかわる | | 0.20 | 1)水中通信装置2種の内、長距離深海用で、実応用可能な装置をほぼ開発し、次年度の商品実用化に近づいた。 2)宮古高校での高校出前講座に出向した。 | | |
| 管理 運営 | 0.25 | 1)評議員として、全学的、学部での責任を果たす。 2)特に、GEコースの準備を行う。 3)大学院の改組もしくは改革の道筋をつける。 | | 0.25 | 1)今年度は特に国際交流関連で力を尽くし、①新規インドとの交流協定締結、②カンボジア工科大学との関係構築、③イラン・テヘラン大学との交流協定更新を行った。 2)全学の戦略経費390万円を得て、工学部多数教員のGE向けの関係強化を行って頂いた(モンゴル、韓国、台湾、ミャンマー、カンボジア、インド、イラン)。 3)大学院改組の議論を進め、たたき台としての形を提案し、意見を収集した。次年度に、具体化をしたい。 | | |
| | 0.05 | 1)研究室や周辺学生達の社会性をはぐみながらの進路指導を実施する。 | | 0.05 | 5名の卒研究生の卒研を無事終了した。12年間大学に在籍した理由のある学生を卒業させることができ、感慨深い。 | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 名嘉村 盛和 | 所 属 | 工学部 工学科 知能情報コース | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 専門教育はJABEE基準の授業を行う。アルゴリズムとデータ構造、並列分散処理では、プログラミング能力向上を意識した内容にする。モデリングと設計では、PBLの教育効果があげられるような工夫を行う。卒業研究、セミナーでは学習教育目標を高いレベルで達成できるように細かい指導を行う。enPiT2での教育効果をあげるための学生支援、FD活動を積極的に行う。 | | 0.40 | 担当する全ての科目においてJABEE基準の授業(教育内容および達成度評価)を行った。モデリングと設計では、チーム開発の基礎演習という位置づけを意識して丁寧に指導した。卒業研究では学生の自主性を生かしながらも細かい指導をすることで完成度を高めた。enPiT2の推進責任者として他大学との連携の下、産学協働の実践教育を実施した。 | |
| 研究 | 0.35 | システム数理、最適化計算、並列処理に関する研究を引き続き推進する。またバイオ情報処理等、学際的なテーマ、および産学連携研究にも積極的に挑戦する。研究成果はできるだけ論文誌、国際会議、国内研究会で報告する。学会活動として電子情報通信学会システム数理と応用研究専門委員会委員長として当該分野の研究を推進する。 | | 0.30 | 国際会議2件、ジャーナル1件の採択となった。他に国際ジャーナル2件が修正中となっている。また、電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員会委員長として全国各地で研究会を開催する等、国内の当該分野の研究を推進した。さらに、県内企業との産学連携研究を2件実施し、それぞれ成果をあげた。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 沖縄県情報通信産業の発展に向けた産学官連携を推進する。人材育成にかかる沖縄県、民間の取り組みに積極的に参加する。 | | 0.10 | 沖縄県の離島振興、情報通信産業の活性化に関する委員会等に積極的に関わった。ETロボコン運営委員、沖縄地区審査委員長の役割を通して若手エンジニアの人材育成活動を行った。 | |
| 管理 運営 | 0.20 | コースの入試委員長、学部の入試委員として、円滑に入試業務が進むように業務を遂行する。また、社会連携委員として民間企業との連携が深まるように積極的に活動する。 | | 0.20 | コースの入試委員長、学部の入試委員として入試業務を取りまとめた。また、社会連携委員として工学部後援会企業との連携等を積極的に行った。学部将来計画委員会委員として大学院カリキュラムについて積極的に議論した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|-----|----|--|
| 名 前 | 遠藤 聡志 | | 所 属 | 工学部 工学科 知能情報コース | | 職 名 | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部専門:工業数学I(線形代数)、ソフトウェア工学、人工知能、キャリア実践および工学基礎演習の一部 共通教育:情報科学演習、キャリア関係科目全般の実施および管理 大学院情報専攻:複雑系工学論 Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しなら計画的に実施する。 キャリア教育支援センター長として、全学学生へのキャリア支援を統括する。 | | 0.30 | 学部専門:工業数学I(線形代数)、ソフトウェア工学、人工知能、キャリア実践および工学基礎演習の一部 共通教育:情報科学演習、キャリア関係科目5科目の実施 Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しなら計画的に実施した。 キャリア教育支援センター長として、全学学生へのキャリア支援を統括した。 (大学院科目は共通教育負荷により休講とし次年度開講する。) | | | |
| 研究 | 0.30 | 5名の卒業研究、3名の修士論文指導をベースに、機械学習を活用したweb mining、image recognitionの応用研究を進める。表情からの感情推定、微妙な表情表現の認識、6Hats モデルを想定した会議発話の分類システムの研究を行う。成果を、情報処理学会、人工知能学会などへ公表していく。 | | 0.25 | 4名の卒業研究、3名の修士論文指導をベースに、機械学習を活用したweb mining、image recognitionの応用研究を進めた。1名は家庭の事情により休学。表情からの感情推定、微妙な表情表現の認識、6Hats モデルを想定した会議発話の分類システムの研究を行った。成果を人工知能学会のフルペーパー、自然言語処理の研究会、情報処理学会全国大会で公表した。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 沖縄県インターンシップ協議会会長 京都大学との合同デザインスクールを実施し地域課題の発見を行う。 キャリア実践の講義を通して、公共施設の清掃ボランティアを行う。 地域企業からの機械学習分野の活用に関する相談に対応する。 | | 0.15 | 沖縄県インターンシップ協議会会長 京都大学との合同デザインスクール 観光客移動・防災支援情報サービス実験推進事務局アドバイザー委員(総合事務局) 短期・中期インターンシップ選考委員(県) 住環境・就職支援等留学生の受け入れ環境充実事業委員(大学コンソーシアム) 沖縄県海外ジョブチャレンジ事業効果検証委員会委員(県) 株式会社Lilsとの機械学習技術に関する共同研究の開始 那覇西高校からのキャリア形成に関する講話依頼への対応 他。 | | | |
| 管理 運営 | 0.30 | キャリア教育センター長 知能情報コース教務委員会委員長 工学部アドミッション委員 URGCC知能情報プログラム委員 工学部オープンキャンパス実施委員会委員長 | | 0.30 | キャリア教育センター長 知能情報コース教務委員会委員長 工学部アドミッション委員 URGCC知能情報プログラム委員 工学部オープンキャンパス実施委員会委員長 を務めた。 | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 山田 孝治 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 1)3年次の指導教員として、サポートを積極的に行う。 2)授業に関して、資料の充実に加え、学生の実体験向上型の授業に務める。 3)Webシステム、チャットシステムなどを積極的に使い、学生の利便性を高める。 | | 0.30 | 1)3年次指導教員として、吉田先生ともにサポートを行えた。 2)授業に関し、資料を充実させ、ビデオ、記事、資料、論文、プログラムデモなどを活用し実体験向上型の授業を行えた。 3)Slackチャットシステムや、Lineグループなど積極的に活用し、学生とのコミュニケーション向上に務めることができた | |
| 研究 | 0.35 | 1)ドローン、VR研究、ディープラーニングなど、新規取り組み研究の発表に努める。 2)継続的に行っている車椅子支援システムを発展させ成果を論文にまとめる。 ※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください | | 0.30 | ドローン、VR、ディープラーニング、車椅子支援システムに関して研究に取り組み、これらの研究を中心に進めた修士2年4名が、学会発表等を行い、また、無事修了することができた。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 小学校等へのプログラミング教育活動を行う。 | | 0.05 | 今年度は、シーイー・アドバンスの出張プログラミング授業「Digital Kids Okinawa」を真和志小学校で行い、本研究室の学生2名がメンターとして活躍できた。 | |
| 管理 運営 | 0.25 | 1)コース長、予算委員会他、それぞれ他の教員を患わせることなく、状況を良くできるように対応する。 2)工学部高専連携委員会委員長として、今年度も高専との学生研究発表会を成功させ、高専との共同研究の拡張を進める。 | | 0.35 | 1)コース教員の協力を得、コース運営をうまく行うことができた。 2)非常案件があったが、コース教員、工学部長、事務長らの協力のもと、(現時点で)最善の対処を行えた。 3)今年度も高専との学生研究発表会を行い、高専28件、工学部30件ポスター発表を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|
| 名 前 | | 高良 富夫 | 所 属 | | 工学部 工学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | シラバスに示したとおりのコースの学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により、学部および大学院の科目を担当し、効果的な講義を行う。プロジェクトベース学習を推進する。自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進める。「工学基礎演習」において、将来の就職を見据えた指導を行う。研究室の学生の進学・就職指導を行う。 | | 0.40 | シラバスに示したとおりのコースの学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により、学部および大学院の科目を担当し、効果的な講義を行った。「工学基礎演習」でプロジェクトベース学習を推進した。自作の音声システムを活用してデモを行い、おもしろい講義を進めた。「工学基礎演習」において、将来の就職を見据えた指導を行った。研究室の学生の就職指導を行い4人が就職内定した。 |
| 研究 | 0.30 | 学生と共に研究論文を投稿し採択を目指す。学会発表を行う。35年間の琉球語の研究の集大成の講演を行う。 | | 0.30 | 学生と共に音響学会に研究論文を投稿し採択された。音響学会に1件、電子情報通信学会九州支部学生会に4件、音響学会九州支部学生会に1件学会発表を行った。35年間の琉球語の研究の集大成の講演を沖縄言語研究センターで行った。 |
| 社会 貢献 | 0.10 | 県内でのIT関連審議会に参加する。福祉関係の学校の非常勤講師を務める。公開授業・出前授業を提供する。教員10年研修を提供する。県内県立高校の研究プロジェクトに協力する | | 0.10 | 県内でのIT関連審議会に参加した。福祉関係の専門学校で音声言語処理の非常勤講師を務めた。公開授業を2件提供した。音声言語処理に関する教員10年研修を提供した。県内県立高校の研究プロジェクトに協力し、高校は沖縄県代表になった。 |
| 管理 運営 | 0.20 | 専攻主任として、便覧作成、入試、外国人入試、に精力的に取り組む。 | | 0.20 | 専攻主任として、便覧作成、入試、外国人入試に委員会とともに精力的に取り組み滞りなく実施した。 |
| | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|-------------|---|-----|--|---|
| 名 前 | | 河野 真治 | 所 属 | | 工学部情報工学科 |
| | | | 職 名 | | 准教授 |
| 領域 | 業務ウエイト比(予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務ウエイト比(実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・学生支援 | 0.30 | [実験] Game 班では Unity によるゲーム作成を行い、Global Game Jam への参加を目指す。[授業] Programming 3 では、電子鍵システムやサーバのログ管理システムなどの作成を行う Google Classなどのツールを使用してみる。[授業] OSの授業で Jenkins とcmakeを積極的に利用する。 | | 0.25 | [実験] Global Game Jam の開催と参加ができた [授業] Programming 3 での、電子鍵システムやサーバのログ管理システムの作成を行ない Open Campus で発表した Google Classは使えなかった。[授業] OSの授業で Jenkins を使用し、評価を行った |
| 研究 | 0.50 | [Gears OS] Gears OSの基本部の実装と、その部分の検証を行うメタ計算を定義する。Raspberry PiにGears OSの実装を行うための調査をする。 [Alice/Christy] 分散計算を行うメタ計算機構の再設計を行う。 [Continuation based C] Normal levelとMeta levelの記述を整理し、CbCのプログラミング手法を確立する。Perlによるコード生成系の改良を行う。 [CbCの理論] Agda上でのCode segment, Data segmentの実装を行い、CbCの理論的解析を進める [Jungle] 分散機能と持続機構の見直しを行い、実用的なDBとして運用できることを示す。CbCによる再実装の準備を進める。 | | 0.60 | [Gears OS] Gears OSの基本部の実装と、その部分の検証を行うメタ計算を定義できた。Raspberry PiにGears OSの実装を行うための調査を行ない、x.v6 のLLVM/GCCによる動作を確認した。 [Alice/Christy] 分散計算を行うメタ計算機構の再設計を行い、Annotationによる構文を導入した。 [Continuation based C] Normal levelとMeta levelの記述を整理し、CbCの部分的な証明ができた。Perlによるコード生成系の改良を行った。 [CbCの理論] Agda上でのCode segment, Data segmentの実装を行った。 [Jungle] 分散環境でのテストが可能なところまでソースを修正した。 |
| 社会貢献 | 0.05 | [Open source conference]で並列信頼開発のソフトウェアの紹介を行う。 [Java Kuche] 社会人、学生を対象とした、Java、ソフトウェアフレームワークの勉強会の 団体であるJava Kucheのサポートを行う。 [学会] 沖縄で行われるOS研究会のローカルアレンジメントを行う | | 0.10 | Open source conference]でcmakeの紹介を行った [Java Kuche] 社会人、学生を対象とした、Java、ソフトウェアフレームワークの勉強会の 団体であるJava Kucheのサポートを行った。 [学会] 沖縄で行われるOS研究会のローカルアレンジメントを行った |
| 管理運営 | 0.10 | [サーバ管理] 学科のサーバと各研究室のサーバの連携を考える。クラウドの使用率を上げる。 | | 0.05 | サーバ管理] システム管理グループに参加した |
| 進路指導 | 0.05 | 修士の学生に、スケジュールリングを意識した就活を提案する。3年次の学生にプログラミング3,4を通して自分でアピールできる プロジェクトを達成させる。多様な就職先を提案する。 | | 0.05 | 修士の学生に、スケジュールリングを意識した就活を提案した。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|--|
| 名 前 | 長山 格 | | 所 属 | 工学部 工学科 知能情報コース | | |
| | 職 名 | 准教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 専門科目における学生の実践力向上を図る。データベースの講義では実践力を養うためフリーDBシステムを授業で活用する。数理計画とアルゴリズムでは、数値計算パッケージを用いた大規模計算演習を実施し、学生の応用力・実践力を養う。学生の学習向上を図るためenPiTに基づく実践型教育プログラムとスクラム開発を活用した授業を行う。また、年次指導教員を担当する。 | | 0.30 | 講義(データベースシステム)(数理計画とアルゴリズム)では目標通りフリーDBソフトおよび数値計算パッケージを活用した実践的な講義を行った。また(マルチメディア情報処理)では実例に則した例題演習を行うことにより、学生の実践力の養成を図った。共通教育科目(情報科学演習)では、実用に即した理解しやすい授業に努めた。またenPiTにも参画しスクラム開発によるシステム開発教育法の修得と授業への活用を行った。 | |
| 研究 | 0.30 | 研究成果の査読論文発表を1本以上行うことを目指す。また、国際会議実行委員として企画運営等を行う。研究分野に関する著書執筆編集作業と外部機関との共同研究を進める。さらに、科研費などの競争的外部資金の獲得を目指す。 | | 0.30 | 査読論文を2本、国際会議2件を発表した。競争的外部資金として科研費補助金(基盤C)を新たに獲得した。IEEE IJHMSPのプログラム委員として国際会議の運営に参画した。さらに研究指導学生が電気学会から優秀論文発表賞を受賞した。外部研究所と環境計測に関する調査研究実施を協議中。また、新しい著書の企画執筆作業を進めている。 | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 各種学会の実施と運営を行い、学術振興事業への貢献、学会集会の計画・実施、ならびに産学交流と社会貢献を行う。さらに、国際会議等の運営委員を担当する。また、地域貢献への対応として、沖縄高専への授業や社会人等を対象とする公開授業を提供する。 | | 0.20 | 電気学会論文査読委員を務めた。IEEE国際会議等の論文レフェリーを担当した。社会人向け公開授業(マルチメディア情報処理)を提供した。非常勤講師として沖縄高専へ「データベース」の講義を後学期に提供し高専生の育成に貢献した。また、某民間企業および琉球大学防災センター・ラボと防災システムに関する調査研究実施を継続中。 | |
| 管理 運営 | 0.10 | 大学入学試験委員、学部教授会、研究科委員会、学科委員、学生相談委員などの委員会活動およびFD活動に積極的に参加する。 | | 0.10 | 教授会、学内委員会、FD講演、広報委員会、大学院プログラム委員会、個人情報管理委員会など各種委員会活動に積極的に出席した。また、大学入試2次試験数学委員を努めた。 | |
| 進路 指導 | 0.10 | 学生の進学・就職・進路指導・相談等を積極的に行う。また、修士および4年生に対してはゼミ・面談等を通じて進路指導・修学指導を多面的に行う。年次指導教員として修学面などの学生指導を行う。 | | 0.10 | 学生の進学・就職・進路指導などゼミ指導を実施した。特段の対応が必要な場合は個別に学生相談・学生指導および保護者面談を実施し、適正な修学と指導が出来るよう心がけた。また、研究室を中途変更した卒研究生を受け入れ、無事に卒業できるよう適正かつ集中的な指導を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|
| 名 前 | | 岡崎 威生 | 所 属 | | 工学部 工学科 |
| | | | 職 名 | | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | アクティブラーニングを強化した授業実践と、WebClass活用による学生個別の学習状況提供による改善に取り組む。教職志望学生の個々の特性を活かしながら社会性と実践能力を養成する。研究室学生に対する面談を通して、企業動向や就職活動の心得等を伝え、キャリア設計と創発的活動の向上に取り組ませることで社会的スキルの獲得を促す。留学生を交えて英語によるコミュニケーション機会を増やすとともに、セミナーでの英作文指導を継続的に実施し、研究成果の英文発表を実質化する。 | | 0.25 | Webclass機能を利用して学生個別の修学レベル提示を逐次行った。例題と演習を多用した授業方法により知識の定着に努めた。ビデオ教材提供は継続して行ない、学生の復習に効果をあげた。教職科目「教職実践演習」を企画・実施し4年次教職志望学生に対する資質検証を図った。4年次に対する卒業後進路指導・相談を行い自己啓発を促進した。研究室学生に対し個人面談を行い、学修状況と進路希望を把握し、修学指導を行なった。4年次に対して面談を通して就学進路希望状況を把握し、社会人スキル獲得のための指導を行った。大学院での講義を英語で実施し、留学生と日本人学生双方のコミュニケーション活性化を図った。卒業研究最終発表について予稿並びに発表方法を全員英語で行った。 |
| 研究 | 0.30 | 大学院学生と共に国際会議3編以上の発表と研究論文3編本以上を投稿し、採択を目指す。共同研究を含めた科学研究費と各種研究資金への応募を増やし、獲得を目指す。企業との共同研究を進めるために、定期的な合同セミナーを実施し、企業現場での課題理解とともに、企業研究員への知識・技術提供を緊密に行う。 | | 0.30 | 研究論文を3本投稿し3本が査読付き論文誌に採択され、査読付き国際会議に3本採択された。企業との新規共同研究を開始し、継続中に加えて計3企業とそれぞれ定期的に研究打ち合わせを行っている。地域連携推進機構共同研究室の利用申請を2件行い採択された。分担研究者として科学研究費Sに採択され、定期的に他大学・他学部研究者と研究会を実施している。 |
| 社会 貢献 | 0.10 | 高大連携事業(プレ実習とインターンシップ生支援)に取り組み、高校生の進学意識向上を支援する。公開授業や人材育成事業に参画し、高度職業人養成に貢献する。学生を交えて社会ボランティア活動(清掃活動等)に取り組む。 | | 0.10 | 沖縄県立美来工科高等学校との高大連携事業において、教職志望学生による授業実践と高校生インターンシップ支援を行なった。学生と海浜清掃活動を企画実施した。企業からの技術相談に対応し、産学連携の公募案件に1件参画した。デジタルコンテンツ制作者人材育成事業へ協力し、県内学生向けセミナーを支援し、ハッカソンイベント審査員を担当した。 |
| 管理 運営 | 0.30 | グローバル教育支援機構共通教育運営部門長として、共通教育提供体制の見直し、初年次アクティブラーニング科目の全学実施、大学院共通コア科目設置、教学IR事業等の中期目標達成に必要な事業の企画・実施、制度見直しを行う。広報戦略本部委員として、大学広報誌の企画・編集を行う。RCC事業本部会議委員として、地域連携事業および地域志向教育の企画・推進を行う。教員養成運営委員として、教職志望学生の資質向上と環境整備に努める。工学部教育委員として、改組後の入試・配属制度を整備し、入学者との適切なマッチングを図る。オンライン授業評価が適切に実施できるよう指導する。 | | 0.35 | グローバル教育支援機構共通教育部門部門長として共通教育提供体制の見直し、初年次アクティブラーニング科目実施への体制づくり、教学IR充実のための指標設計、共通教育規則の改定、大学認証評価の自己評価書作成等を行った。広報戦略本部委員として、SNS利用基本方針の策定を行った。RCC事業本部会議委員として、地域連携事業および地域志向教育の企画・推進に寄与した。工学部教職担当教員として教員志望学生ポートフォリオ指導や手引き作成を行った。また教職教科検討委員および、教職課程実習委員として、教員免許再課程認定への工学部申請準備を行った。工学部教育委員として、新カリキュラムや運営体制の構築に寄与した。学科オンライン授業評価の実施を指導し全教科で実施した。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|---|-----|---------------------|---|
| 名 前 | | 長田 智和 | 所 属 | | 工学部 工学科 知能情報コース |
| | | | 職 名 | | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.00 | 講義科目「情報ネットワークⅠ」では、教科書に基づいて基本的な情報システム・情報ネットワーク技術について分かりやすく講義する。同「情報ネットワークⅡ」では、情報システム・情報ネットワークの応用技術について講義する。同「インターネットソフトウェア」では、インターネット技術に欠かせないクラウド技術について演習を交えて講義する。情報工学実験Ⅰ・Ⅱでは、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させる。同Ⅲでは、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させる。研究ゼミでは、情報システム・情報ネットワーク技術に関する実践的な研究テーマについて学生に取り組ませる。学生支援については、担当学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートする。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策(履歴書チェック、面接対策等)を積極的に行う。 | | 0.30 | 年度目標に対して、すべての目標を達成しました。 |
| 研究 | 0.00 | 情報システム・情報ネットワーク技術を活用した、地域における情報サービス基盤(SDN/クラウド技術やID連携技術など)構築に関する研究を推進する。その過程において、研究会発表、さらには、成果論文発表(ジャーナルへの投稿)に向けて開発成果を蓄積する。 (成果目標: ジャーナル1編以上、口頭発表2件以上) | | 0.30 | 年度目標に対して、査読論文の掲載は達成できなかったが、口頭発表などその他の目標は達成しました。 |
| 社会貢献 | 0.00 | 工学部が沖縄県警と締結した「サイバー犯罪対策に係る連携した取り組みに関する協定」に基づき、国民・県民に対するサイバー犯罪の防止のための捜査員研修や社会への啓発活動に取り組む。また、セキュリティ・ミニキャンプ沖縄実施協議会の会長として、同イベントの成功に向けて取り組む。 | | 0.20 | 年度目標に対して、すべての目標を達成しました。 |
| 管理運営 | 0.00 | 学科各種委員会の業務を率先してこなし、円滑な学科運営に貢献する。また、全学の情報システム運営委員、セキュリティ運営委員等としての職務も、自身の専門性を生かして積極的に取り組む。 | | 0.20 | 年度目標に対して、すべての目標を達成しました。 |
| 計 | 0.00 | | | 1.00 | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 名 前 | | 當間 愛晃 | 所 属 | 工学部 工学科 知能情報コース | 職 名 | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.55 | H29年度から数年間は、新科目担当および新カリキュラム対応で教育に占めるウエイトが大きくなる見込みである。 (1)卒業研究およびセミナーを通し、研究活性化に結びつくよう学生指導に努める。例年通り、沖縄高専との連携強化に向けた取り組みを実施する。 (2)URGCC、エンジニアリング教育、時代の流行や今後求められるノウハウを考慮し、プログラミング1,2及び人工知能系科目の設計・実施に取り組む。また、新担当の学科共通「工学概論(1コマ)」を準備・実施する。大学院「データマイニング論」の改善に取り組む。 (3)昨年度の申し送り事項を踏まえ、5年目となるデザインスクールの企画運営実行を行う。 (4)大学院新1年生の年次指導として、指導に取り組む。 | | 0.55 | (1)担当科目の評価基準を明示し、達成できるよう指導した。また、沖縄高専との交流研究会を継続実施しており、互いに刺激し合えるよう努めた。 (2)プログラミング1,2を改善・実施した。特に、新カリキュラムに伴う後続科目(アルゴリズムとデータ構造)との調整、解説資料及び課題改善を行った。実験4(データマイニング班)についてはコードレビュー・開発スタイル指導を実施できるよう、改善に努めた。大学院「データマイニング論」については体系的知識提供のため教科書の比重を高くしたが、最新論文輪読との調整が必要に思われる。 (3)例年以上に学外協力を仰ぐ形となったが、学生には概ね講評だったようである。現在は知見整理を兼ねて解説記事を執筆中である。 (4)個人面談・MLを通して指導に努めた。例外的な指導が必要な際には最大限努力を行った。 | |
| 研究 | 0.40 | (1)学術会議等イベント参加時の情報整理を兼ねたブログ記事の作成。 (2)大学院修士課程の学生と共に学会発表を通した研究活動の公開並びに、研究発展を目指す。 (3)研究交流を行い、研究の幅を広げる。特に、2016年度から初めた機械・宮田先生らとのデータ解析コンペを通した連携強化に取り組む。 (4)国際会議or査読付き論文への投稿を目指す。 (5)共同研究契約を結んだ企業との連携強化に取り組む。 | | 0.40 | (1)研究発表および聴講参加した情報処理学会全国大会、沖縄高専との交流研究会、FANシンポジウム等イベントの参加記録を整理し、ブログ記事として公開した。 (2)一部発表できていない院生がいるが、3月の発表を含めて合計2件(学部生を含めると3件)の学会発表となる予定である。 (3)宮田・遠藤・岡崎先生らとの合同でデータ解析コンペティションへ参加した。学生指導を含めて次年度も実施予定である。 (4)今年度はどちらへも投稿できていない。要改善である。 (5)問題設定及び簡易検証実験に着手し始めており、次年度以降に向けた再調整を検討している。 | |
| 社会 貢献 | 0.03 | (1)教育研究活動の学外に向けた情報発信。 (2)デザインスクールにおける「地域課題×他流試合型ワークショップ」の実施。 | | 0.03 | (1)学科ブログを通してイベント参加レポートを公開した。 (2)今年度は「子どもの貧困対策」というテーマで実施し、子どもの居場所学生ボランティアセンター、大学コンソーシアム沖縄をはじめとした多数の協力を頂いた。また、受講生は京大10名、琉大(工7,観光2,法文2,医1,教育1、理工学研究科1,人文社会科学研究科1)、名桜大学3、愛媛大学2、開邦高校1、教職員(京大4、琉大3)となっており、バラエティに富むメンバで実施することができた。 | |
| 管理 運営 | 0.02 | (1)オープンキャンパス委等の各種委員会活動に積極的に参加する。 | | 0.02 | (1)積極的に参加し、運営業務を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 吉田 たけお | 所 属 | | 工学部 工学科 知能情報コース | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 学部担当科目(情報工学実験Ⅰ～Ⅳ、デジタル回路)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行う。 | | | 0.35 | 情報工学実験Ⅰ～Ⅳについては、授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。デジタル回路については、今年度からの担当であるため、まだ具体的な改善は行っていないが、次年度に向けて準備中である。今後もより一層改善をする必要があるが、今年度の目標は達成したと考える。 | | |
| 研究 | 0.30 | 新規研究テーマでの学会発表および研究論文の採択を目指す。また外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。 | | | 0.30 | 新規研究テーマについて、電子情報通信学会の合同講演会において発表を行った。論文誌への投稿および外部資金の獲得に関しては達成できなかったため、次年度はこれらを達成できるように努める。 | | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 毎年、沖縄県内で開催されるLSIデザインコンテストの実行委員を務める。 | | | 0.05 | LSIデザインコンテスト(2018/03/09実施)の実行委員として、コンテスト運営に携わった。 | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 学部情報委員、学部施設・環境委員(委員長)、学科入試委員、学科計算機実験委員などの委員会活動に積極的に参加する。 | | | 0.15 | 全ての委員会に積極的に参加し、貢献を行った。 | | |
| 進路 指導 | 0.15 | 学部3年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導に努める。研究室に所属する学部学生および修士学生に対する進路指導に努める。 | | | 0.15 | 学部3年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導を行った。また、研究室に所属する学生に対しても進路指導を行った。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 宮里 智樹 | 所 属 | 工学部 工学科 | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.20 | 学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、エンジニアリングデザイン教育の導入を行う。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱの適切な実施に向けた支援を行う。文科省事業のアプトプットとして、若手社会人と学生を対象としたIoT人材育成のための実証講座を開催する。 | | 0.20 | 学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、実験2、3においてエンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行った結果、学生の自発的な活動を引き出した。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱに関しては、積極的に関わる事ができなかった。次年度はスケジュール管理に配慮し、関わり方を改善したい。若手社会人と学生を対象としたIoT人材育成のための実証講座を開催し、農業支援のためのドローン開発をPBLを通して実施し、参加者のスキルアップに役立った。 | |
| 研究 | 0.30 | 大学院博士過程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金については、文科省による「成長分野等における中核的人材養成等の戦略的推進」事業へ昨年度に引き続き採択予定。 | | 0.30 | 文科省による「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」事業が採択され、IoT人材育成のためのケーススタディ教材、eラーニング教材、PBL教材の開発を行った。2年間の成果を活用し、来年度は産業界に働きかけを行い、IoT人材育成の活動を活発化させつつ、論文へも繋げて行きたい。 | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行う。教育者研究会の運営サポートを行う。 | | 0.20 | 伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行った。教育者研究会の運営サポートを行った。沖縄県情報産業振興課による「IT人材力育成強化事業」の選定委員を務めた。 | |
| 管理 運営 | 0.30 | 予算委員、安全衛星改善委員、計算機実験委員、オープンキャンパス委員、ニュース編集WG委員、レク委員などの委員会活動に積極的に参加する。 | | 0.30 | 予算委員、安全衛星改善委員、計算機実験委員、オープンキャンパス委員、ニュース編集WG委員、レク委員などの委員会活動に積極的に参加した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 赤嶺 有平 | 所 属 | | 工学部工学科 | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--------------------------------------|--|---------------------------------------|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 実験4のプロジェクトマネジメントにアジャイル開発の手法を取り入れる | | 0.30 | 実験4にアジャイル開発を取り入れ、ARアプリケーションの開発を通じて実践演習を行った。成果物は、enpit2で1位入賞となり確実に成果が現れている。 | | | |
| 研究 | 0.40 | 拡張現実技術を用いた観光ガイドシステムの開発に取り組む | | 0.40 | ipad実機で動作するAR観光ガイドシステムのプロトタイプを開発した。 | | | |
| 社会貢献 | 0.20 | 拡張現実技術を用いた観光ガイドシステムを用いて県内の定跡等で実際に動くシステムを目指す | | 0.20 | 沖縄県立博物館との共同研究に向けて話し合いを行っている。 | | | |
| 管理運営 | 0.10 | 各種委員会において着実に業務を遂行する。 | | 0.10 | 安全衛生委員として業務を遂行した | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 國田 樹 | 所 属 | | 工学部 工学科 | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | (1)「情報工学実験II」では、情報工学分野の知識とプログラミングスキルに関する実践的な能力を育成できるテーマを実施する。(2)「情報工学実験IV」では、enPiT2と連携してビジネスアプリケーションの開発をテーマとした実践的授業を実施する。(3) enPiT2と連携したFD活動を実施し、グループ学習に関する知識と実践力の向上を目指す。(4) 知能情報コースの学生相談委員として、学生から履修や日常生活、および進路に関する相談を受けた場合は、傾聴を重視した適切なサポートを行う。 | | | 0.40 | 目標を概ね達成できた。 (1-2)「情報工学実験II」を担当し、情報工学分野の観点から数学を利用するためのテーマを実施した。「情報工学実験IV」を担当し、enPiT2と連携してWebアプリケーション開発をテーマに2グループ(計11名)のPBL学習を指導した。また、「特別講義」(学部生・大学院生対象)の世話人として、県外から講師を招へいして「分子ロボティクス」に関する講義を開講した。(3) enPiT2の活動に関連し、学生の県外合宿の引率、学内での成果発表会の運営などを実施した。enPiT2が主催するFD合宿に2回参加し、PBL学習の進め方についての知見を得た。(4) 知能情報コースの学生相談員として、学生の履修や進路に関する相談に対応した。(5) 修士課程の学生(2名)の研究指導を担当した。 | | |
| 研究 | 0.40 | (1) 着任以前に進めていた研究を論文にまとめて、国際ジャーナルへの投稿や掲載を目指す。(2) 新規の研究テーマとして、水生生物の生体電気活動計測に関する研究、および生物の集団挙動に関する研究を立ち上げる。(3) 情報系の国際会議の実行委員を担う。(4) 研究企画室の個別相談を活用して、科研費の他に民間財団の研究費に応募する。(5) 学外の研究者(北海道大学、公立はこだて未来大学、長岡技術科学大学、富山大学、横浜国立大学、名古屋工業大学、京都産業大学、九州大学、サレジオ工業高等専門学校)との共同研究を進める。 | | | 0.40 | 目標を概ね達成できた。特に(1)については目標よりも高いレベルの成果が得られた。(1) 着任以前に進めていた研究を論文にまとめて、査読付きの国際ジャーナルに投稿し掲載された(2論文)。国内外の学会で研究発表した: 国際学会ポスター2件、国内学会シンポジウム講演1件、国内学会口頭2件、国内学会ポスター6件。(2) 新規の研究テーマとして、生物の集団挙動に関する研究を立ち上げた。予定していた水生生物の生体電気活動計測に関する研究の立ち上げは保留し、ヒトを対象とした生体計測の研究を立ち上げた。(3) IFP ICEC 2017のpublication chairを担った。(4) 科研費に応募するとともに、他大学の共同利用研究費に応募した。(5) 学外の研究者(予定通り)を訪問し、共同研究を継続して実施した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | (1) enPiT2と連携して、沖縄県内のIT関連企業の方々との交流を深め、沖縄情報通信産業の発展に向けた産学官連携を推進する。(2) 生物物理学会による「小中高への講師派遣サポート事業」に講師登録を行い、沖縄県内からの講義依頼は積極的に引き受ける。 | | | 0.10 | 目標を概ね達成できた。 (1) enPiT2に関連して、沖縄県内のIT関連企業の方々が担当する講義を聴講し、意見交換を実施した。(2) 生物物理学会による「小中高への講師派遣サポート事業」に登録した。(3) アウトリーチ活動として、高校生の研究活動の支援や試料提供を実施した(5グループ)。(4) オープンキャンパスにおいて高校生向けのセミナーを実施した。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | (1) 全学のハラスメント相談支援センターの学内相談員として、ハラスメントに関する知識を深めるとともに、相談を受けた場合には適切に対処する。(2) 全学のジェンダー協働推進室員として、ダイバーシティ研究環境整備に取り組む。(3) 学部選挙管理委員として公平な選挙の実施に努める。(4) コースの教務委員、学生相談委員、オープンキャンパス委員としてコース運営に積極的に参加する。 | | | 0.10 | 目標を概ね達成できた。 (1) ハラスメント相談支援センターの学内相談員として、委員会や研修会への出席、相談等を実施した。ハラスメント関連の委員会活動を実施した。(2) ジェンダー協働推進室委員として、委員会への出席を中心にダイバーシティ研究環境の整備に取り組んだ。(3) 学部選挙管理委員として選挙運営を担った。(4) コースの教務委員として時間割編成や学習サポートのとりまとめなどの役割を担った。オープンキャンパス委員としてオープンキャンパスの準備や当日運営を実施した。学生相談委員として、学生の履修や進路に関する相談に対応した。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |